恒川遺跡群（ごんがいせきぐん）

―恒川A地籍出土木製品編―

2008年3月

長野県飯田市教育委員会

恒川遺跡群

―恒川A地籍出土木製品編―

2008年3月

長野県飯田市教育委員会

序

恒川遺跡群は、飯田市を代表する遺跡の一つで、昭和52年から始まった一般国道153号線座光寺バイパス調査時に和同開珎銀銭や硯・帯金具・緑釉陶器など珍しい遺物が見つかり、古代「伊那郡衙」跡ではないかと推測されました。これを受けて飯田市教育委員会では、郡衙の実態解明のための範囲確認調査を昭和57年度以降、国・県からの補助を受けて実施してまいりました。地権者や座光寺地区の皆様の協力に支えられ、平成６年度の調査では、長野県内ではじめて「正倉」が確認され、恒川遺跡群が伊那郡衙遺跡として認識されました。

伊那郡衙の所在は、律令時代という新たな国家形成がなされていったなかで、この地がその一翼を担っていたということを示しています。我々の先祖が時代の大きなうねりのなかで、何を思い、何を考えたか想像の域は出ませんが、時代の先端を走っていたことは間違いありません。信濃国の十郡のうち、唯一郡衙と確認されている恒川遺跡群の更なる調査研究や継続的な調査が重要であると改めて痛感いたしました。

今回の報告書では、恒川遺跡群調査の発端となりました一般国道153号線座光寺バイパス調査時に恒川Ａ地籍から出土した木製品について、資料を掲載いたしました。この木製品は古墳時代から中世にかけてのものが多く、土器や石器とはまた違って私たちに当時の生活を偲ばせてくれる貴重なものです。この資料提示が今後の調査・研究の一助となりますことを願っています。

地域の歴史を学ぶことは、ただ単に知識の吸収ではなく、自分自身を知ることに繋がります。また私たちも地域の歴史を正しく伝えるための弛まぬ努力が必要となります。文化財保護に携わる者として、文化財を地域の中で生かす努力をしていかなければと改めて思う次第であります。

最後になりましたが、文化財保護の本旨にご理解を賜り、ご協力をいただきました地権者をはじめ地元の皆様ならびに調査に従事されてきた関係者の方々に深甚なる感謝を捧げまして発刊の辞といたします。

平成20年３月

飯田市教育委員会

教育長　伊　澤　宏　爾

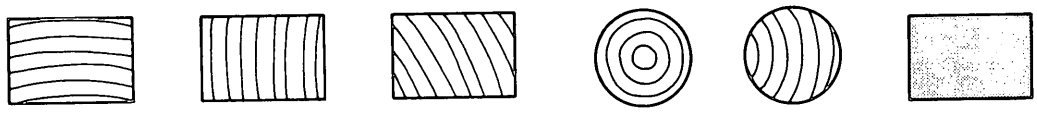
例　言

1．本書は、国・県の補助を受け、一般国道153号線座光寺バイパス建設に伴う恒川遺跡群発掘調査において恒川A地籍より出土した木製品についての報告書である。

2．本書は、一般国道153号線座光寺バイパス建設に伴う恒川遺跡群発掘調査において恒川A地籍より出土した木製品について基本資料の提示を目的とするものである。考察等については、今後におけるその他の出土遺物との総合的な検討の中で実施する。

3．恒川A地籍より出土した木製品は、取り上げ後に実測し、水漬け保存された。その一部については保存処理しており、今回本書に掲載した木製品は、実測され、保存処理されているものを基本とした。

4．実測図に用いた木取り、漆塗範囲は下記の標記を用いた。



板目　柾目　斜め　芯持ち　削り出し　漆塗彩

5．本書の作成にあたっては、恒川A地籍はGOAの略号を付して整理を行った。

6．遺物の出土地点を示す調査区グリッドは、バイパス道路建設工事における中心杭をもとに任意に設定されたものである。詳細については『恒川遺跡群－一般国道153号線座光寺バイパス用地内埋蔵文化財発掘調査報告書一　遺構編』（飯田市教委　1986）に記載されている。

7．本書に関わる図面作成は整理作業員の協力により、全調査員総意のもと、坂井勇雄が行った。

8．本書の執筆、編集は坂井勇雄が行い、山下誠一が校閲した。

9．出土状態等の写真は現地における調査担当者が撮影し、遺物写真撮影は西大寺フォト杉本和樹氏に委託した。

10．本書に関連した出土遺物及び図面写真類は飯田市教育委員会が管理し、飯田市川路1004－1飯田市考古資料館に保管している。

11．木製品の整理にあたっては、長野県埋蔵文化財センター　贄田　明氏にご指導・ご教示をいただきました。記して感謝の意を表します。

目　次

序
例言

本文目次

第１章　経過…… 1
　第１節　調査の経過…… 1
　第２節　調査組織…… 1
第２章　木製品について…… 3
　第１節　木製品の出土状態について…… 3
　第２節　木製品包含層…… 3
　第３節　出土後の保存処理について…… 3
　第４節　木製品の分類…… 3
　第５節　木製品の概観…… 5
　　１．工具…… 5
　　２．農具…… 5
　　３．紡織具…… 9
　　４．服飾具…… 9
　　５．容器…… 10
　　６．食事具…… 10
　　７．楽器…… 11
　　８．祭祀具…… 11
　　９．部材…… 12
　　10．その他 …… 12
　第６節　結語…… 13

挿図・表目次

挿図１　調査遺跡位置図…… 2
挿図２　恒川遺跡群地籍図…… 4
挿図３　GOA調査区全体図 …… 6
挿図４　木製品出土グリッド…… 8
挿図５　工具・農具…… 18
挿図６　農具…… 19
挿図７　農具・紡織具…… 20
挿図８　紡織具・服飾具…… 21
挿図９　紡織具・容器…… 22
挿図10　容器 …… 23
挿図11　容器 …… 24
挿図12　容器 …… 25
挿図13　容器・食事具 …… 26
挿図14　楽器・祭祀具 …… 27
挿図15　祭祀具・部材 …… 28
挿図16　その他 …… 29
挿図17　その他 …… 30
挿図18　その他 …… 31
挿図19　その他 …… 32
挿図20　その他 …… 33
挿図21　その他 …… 34
第１表　木製品観察表…… 16
報告書抄録

写真図版目次

図版１　恒川Ａ地籍現状…… 35
図版２　３層遺物出土状況・５層遺物出土状況… 36
図版３　５層遺物出土状況…… 37
図版４　５層全体遺物出土状況…… 38
図版５　６層遺物出土状況…… 39
図版６　鍬・又鍬・鋤出土状況…… 40
図版７　横槌・桙出土状況 …… 41
図版８　下駄・曲物出土状況…… 42
図版９　鏃形・人形・舟形出土状況…… 43
図版10　馬形・部材出土状況 …… 44
図版11　調査風景 …… 45
図版12　鍬・斧柄・平鍬 …… 46
図版13　平鍬・又鍬 …… 47
図版14　横鍬・平鋤・多又鋤 …… 48

図版15　鎌柄・田下駄・横槌 …… 49
図版16　桙・紡錘車…… 50
図版17　櫛・下駄 …… 51
図版18　刳物 …… 52
図版19　曲物 …… 53
図版20　曲物・挽物・匙 …… 54
図版21　箸・琴柱・鏃形・人形 …… 55
図版22　刀形・舟形 …… 56
図版23　馬形・鳥形・建築部材 …… 57
図版24　建築部材・杓子形木製品・留具状木製品… 58
図版25　両端加工木製品・有頭状木製品 … 59
図版26　有頭状木製品・用途不明品 …… 60
図版27　用途不明品 …… 61
図版28　用途不明品 …… 62

第1章　経　　過

第1節　調査の経過

経過の詳細については、『恒川遺跡群－一般国道153号線座光寺バイパス用地内埋蔵文化財発掘調査報告書－　遺構編』（飯田市教委　1986）及び、『恒川遺跡群（官衙編）』（飯田市教委　2007）に記載されている。恒川A地籍における調査は、昭和51年度から56年度まで実施された一般国道153号線座光寺バイパス建設に先立つ発掘調査の中で行われた調査であり、昭和51・52・56年度に実施された。

第2節　調査組織

1．主管課

飯田市教育委員会	社会教育課	文化係	（～平成８年６月）
	博物館課	埋蔵文化財係	（平成８年７月～平成12年度）
	生涯学習課	文化財保護係	（平成13年度～平成18年度）
	生涯学習・スポーツ課	文化財保護係	（平成19年度～）

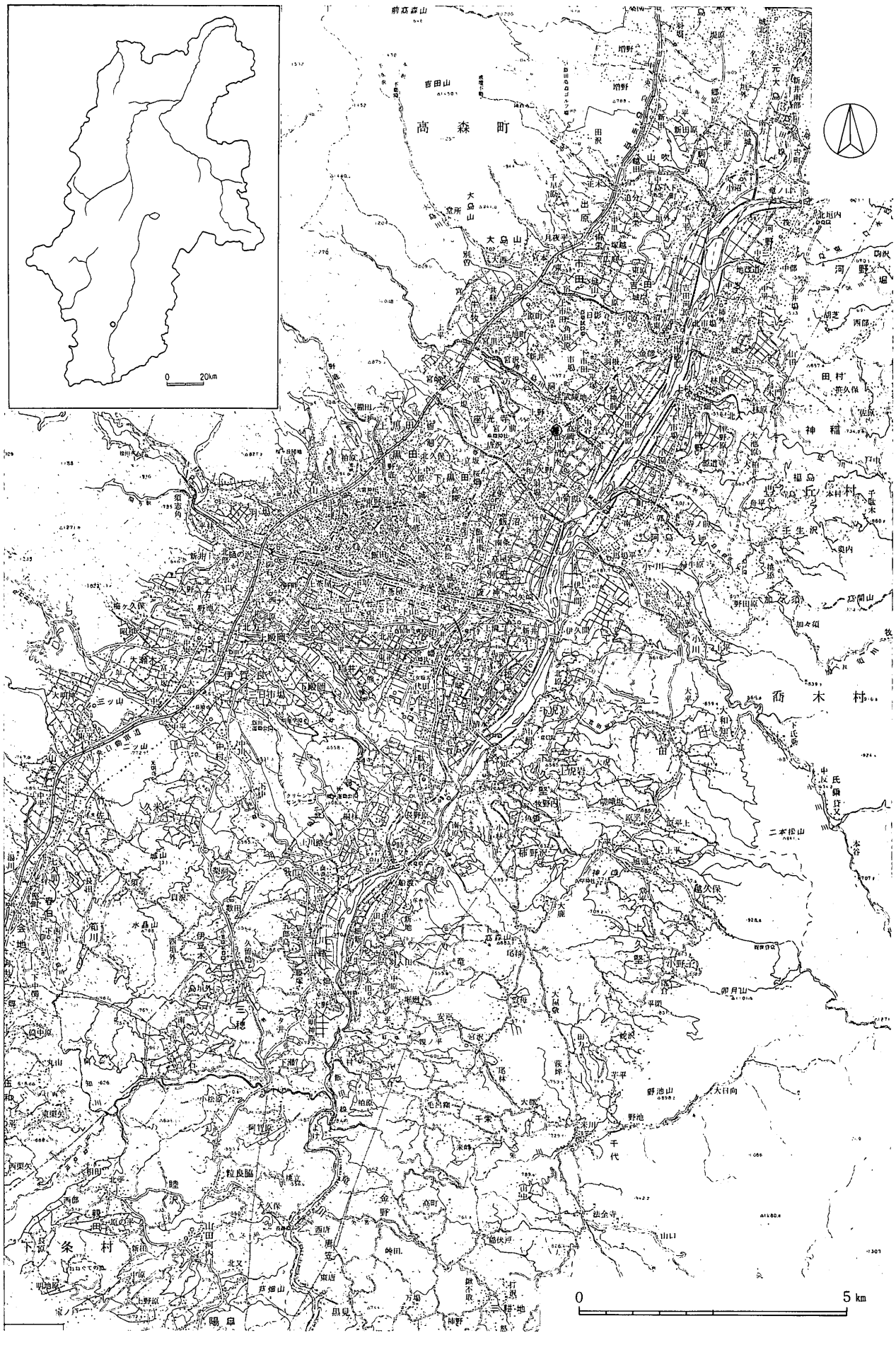
2．調査主体者（平成19年度　報告書刊行時）

飯田市教育委員会	教育長	伊澤宏爾				
	総　括	山下誠一				
	調査員	澁谷恵美子	下平博行	坂井勇雄	羽生俊郎	
	作業員	伊東裕子	金井照子	小平まゆみ	関島真由美	竹本常子
		中田　恵	中平けい子	中村地香子	樋本宣子	福沢育子
		松本恭子	宮内真理子	森藤美知子	森山律子	吉川悦子

3．事務局（平成19年度　報告書刊行時）

飯田市教育委員会

教育次長	関島隆夫				
生涯学習・スポーツ課長	宇井延行				
文化財保護係長	山下誠一				
文化財保護係	宮澤貴子	澁谷恵美子	下平博行	坂井勇雄	羽生俊郎



挿図１　調査遺跡位置図

第2章　木製品について

第1節　木製品の出土状態について

国道バイパス調査時における恒川A地籍地点の調査では、その調査区の南西部分において湿地帯が確認され、湿地際から北側の恒川B地籍にかけて弥生時代後期から古墳時代前期の住居址及び溝址がかなり密集して検出された（飯田市教委　1986)。恒川A地籍は、隣接する恒川B地籍、倉垣外地籍の地形と比較して低地に位置しており、その北側には「恒川清水」と呼ばれる古来より清水が湧く湧水点が存在する。そのような場所のため、この一帯は元来河川の流路であったと思われ、溝址1の西側から西側で隣接する倉垣外地籍に至る幅約20mの範囲で湿地帯が存在する。周辺の段丘地形から判断して南に向かって広がるものと考えられる。

木製品のほとんどはこの湿地帯からの出土であり、現地における調査では湿地帯ゆえに遺構等の確認が困難を極め、調査方法としてグリッド単位での遺物検出及び下層への掘り下げを行った。木製品は、湿地帯の広い範囲で古墳時代から中世と思われる層を中心に出土した（挿図4)。

第2節　木製品包含層（挿図3）

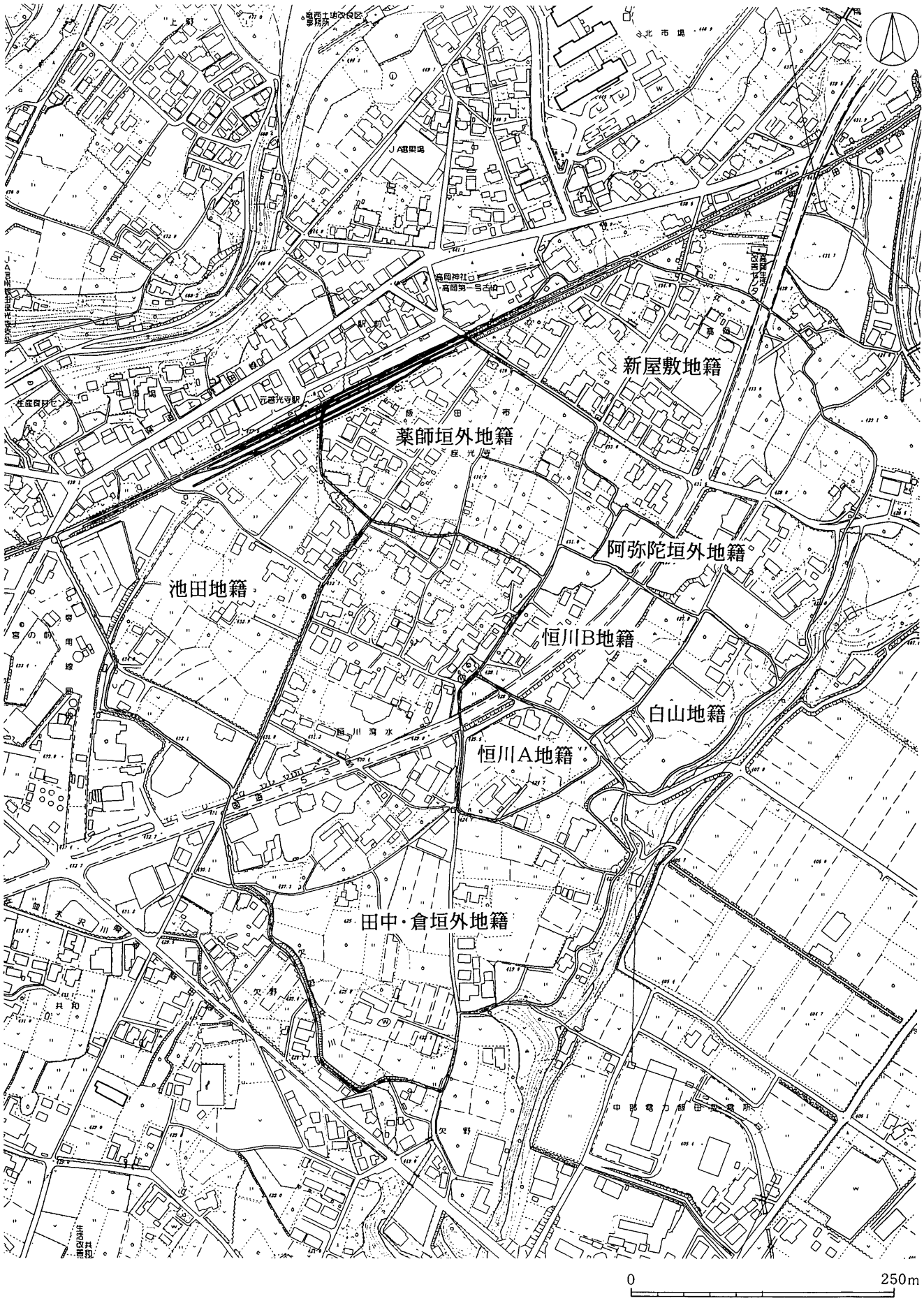
出土した木製品は、主に5層（黒色土)、6層（褐色砂利)、7層（黒色粘質土）を中心に出土しており、特に5層での出土が多い。木製品包含層を含む基本土層の各層における時代相については、各層において自然水流痕等が顕著にみられ、複雑な土層状況を呈しているため確定することは困難であった。当時の現地における調査のなかでは、3層（中世）4層（平安時代）5層上層（奈良）下層（古墳時代後期）6層（古墳時代）7層（弥生時代後期）の概略的な時代相が推定を含めて認識されているが、現状では出土遺物について「弥生時代後期から中世」という時代相しか与えることができない。詳細な時代相については、現在整理中である恒川A地籍出土土器類の状況を含めて多角的に判断していかなければならず、今後の大きな課題であるといえる。

第3節　出土後の保存処理について

出土した木製品は、遺物実測後水漬け保存され、その一部について昭和57年度から62年度にかけてPEG含侵処理法、アルコール・エーテル・樹脂法、アルコール・キシレン樹脂法による保存処理を実施した。

第4節　木製品の分類

木製品の分類については、『木器集成図録　近畿古代編』(奈良文化財研究所　1985)、『木器集成図録　原始編』(奈良文化財研究所　1993）における分類を参考に下記のとおり記載した。



挿図２　恒川遺跡群地籍図

1．工　具（斧　鏝）
2．農　具（鍬　鋤　横鍬　鎌柄　編台　横槌　田下駄）
3．紡織具（紡錘車　桙）
4．服飾具（櫛　下駄）
5．容　器（刳物　曲物　挽物）
6．食事具（杓子・匙　箸）
7．楽　器（琴柱）
8．祭祀具（刀形　鏃形　人形　舟形　馬形　鳥形）
9．部　材（建築部材　留具状木製品）
10．その他（杓子状木製品・両端加工木製品・有頭状木製品・その他）

第5節　木製品の概観（挿図5～21）

1．工具

斧柄（1）

一木式の膝柄で、袋状鉄斧の斧柄である。刃先の方向から横斧と思われる。斧台は長方形を呈し、一端に斧身を装着するソケット状の削りだしが見られる。握りは外側に若干反っている。

鏝（2）

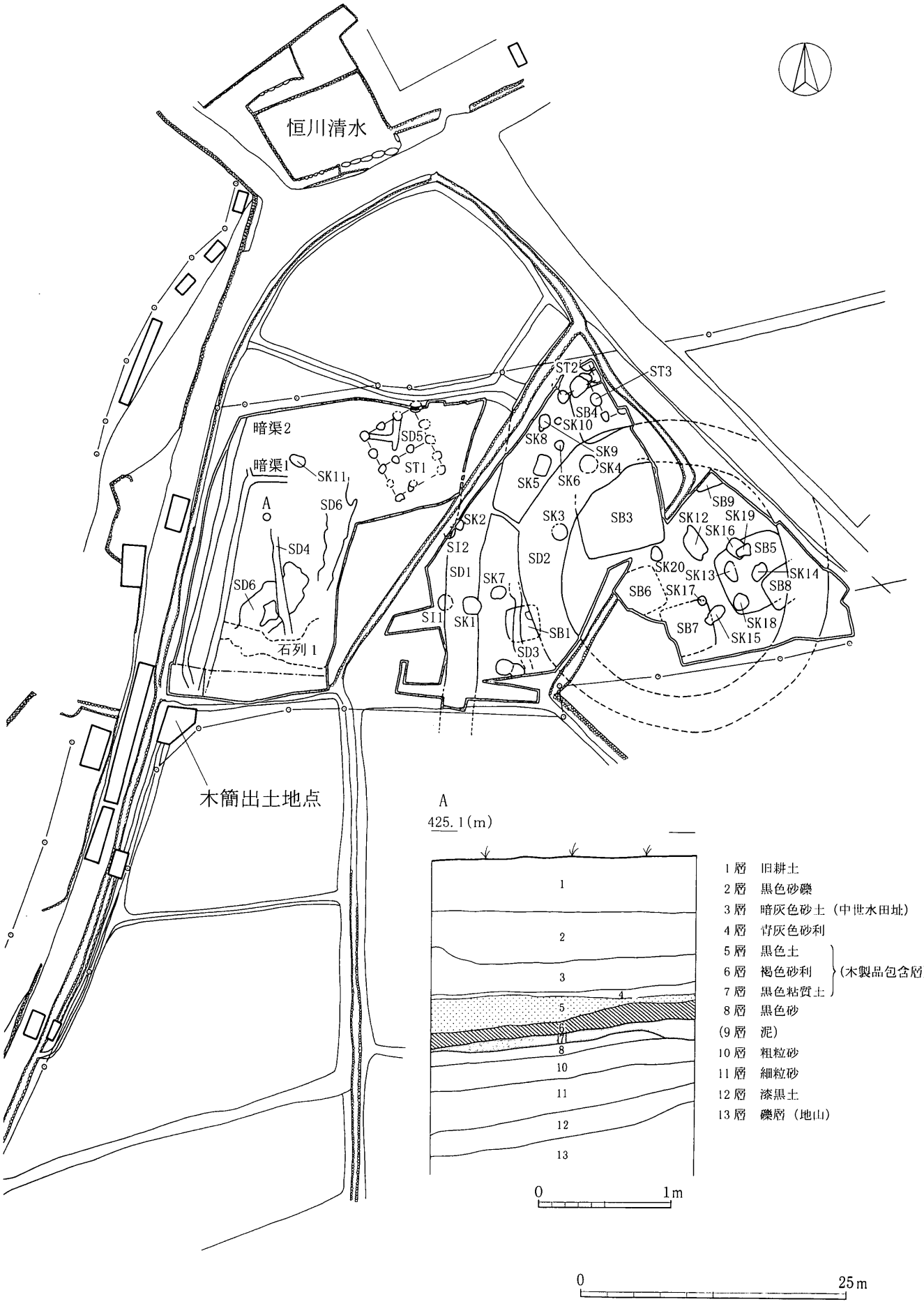
平面形状が長方形で、把手と磨り板からなる構造から鏝と判断した。把手は、ほぼ中央部で長方形状に穿孔されており、磨り板は前後に湾曲している。

2．農具

曲柄平鍬（3～5）

所謂、「ナスビ形着柄鍬」と呼ばれるもので、『木器集成図録　原始篇』において「膝柄と反柄を合わせて「曲柄」と総称する」（上原　1993）方針に従い、「曲柄平鍬」の名称を使用する。

3は、軸部、刃部の一部を欠損しているが、刃部下辺中央部に三角形状の透かしを持つ。笠の下のくびれから刃縁に向かって徐々に幅を増し、刃部の最大幅が中央よりも下にくる『木器集成図録　原始篇』の「曲柄平鍬DI式」に想当すると思われる。4は、軸部、刃部とも広い範囲で欠損しており全体的な形状が不確定であるが、笠の下部分に若干のくびれが見られる。「曲柄平鍬DI式」に想当すると思われる。5は、軸端部及全体の1／2が欠損しているが、笠の下のくびれから外湾しながら幅を増し、刃部の途中で屈曲して刃縁に至る。「曲柄平鍬DⅢ式」に想当すると思われる。5は鉄刃装着、3、4は装着部が残存していないため不明である。



挿図３　ＧＯＡ調査区全体図

直柄又鍬（6）

頭端部及び二又に分かれた刃部の一方が欠損しているが、頭部に方形の柄孔が見られるのが特徴的である。頭部から刃部はほぼ同じ厚さを持ち、柄孔は隆起を持たない。

曲柄又鍬（7・8）

「ナスビ形着柄鍬」と呼ばれるもので、曲柄平鍬と同様の理由から「曲柄又鍬」の名称を使用する。7は軸部、刃部の半分を欠損しており全体的な形状が不確定であるが、刃部上方で二又に分かれることから又鍬と判断した。笠の下の刃部が部分的に欠損しているため断定はできないが、『木器集成図録原始篇』の「曲柄又鍬DⅡ式」に想当すると思われる。8は写真図版（図版13）のみで掲載したもので、二又に分かれた刃部の一方が欠損している。「曲柄又鍬DⅡ式」に想当すると思われる。7は鉄刃装着と思われる。

鋤（9・10）

9は、柄と鋤身を一木で製作した一木平鋤である。鋤身は、肩部が直線的に水平となる「角肩」タイプで、平面形は長方形を呈す。10は写真図版（図版14）のみで掲載したもので、鋤身部分である。刃部は欠損している部分が多いが、2又以上に分かれる可能性が考えられる。鋤身上部には着柄軸と思われる突起が見られることから組合せ又鋤と考えられる。

直柄横鍬（11）

刃部が一部欠損しているが、平面形は長方形を呈し、中央部上方に柄孔が穿孔されていた。柄孔内に柄の一部が残存していた。

鎌柄（12・13）

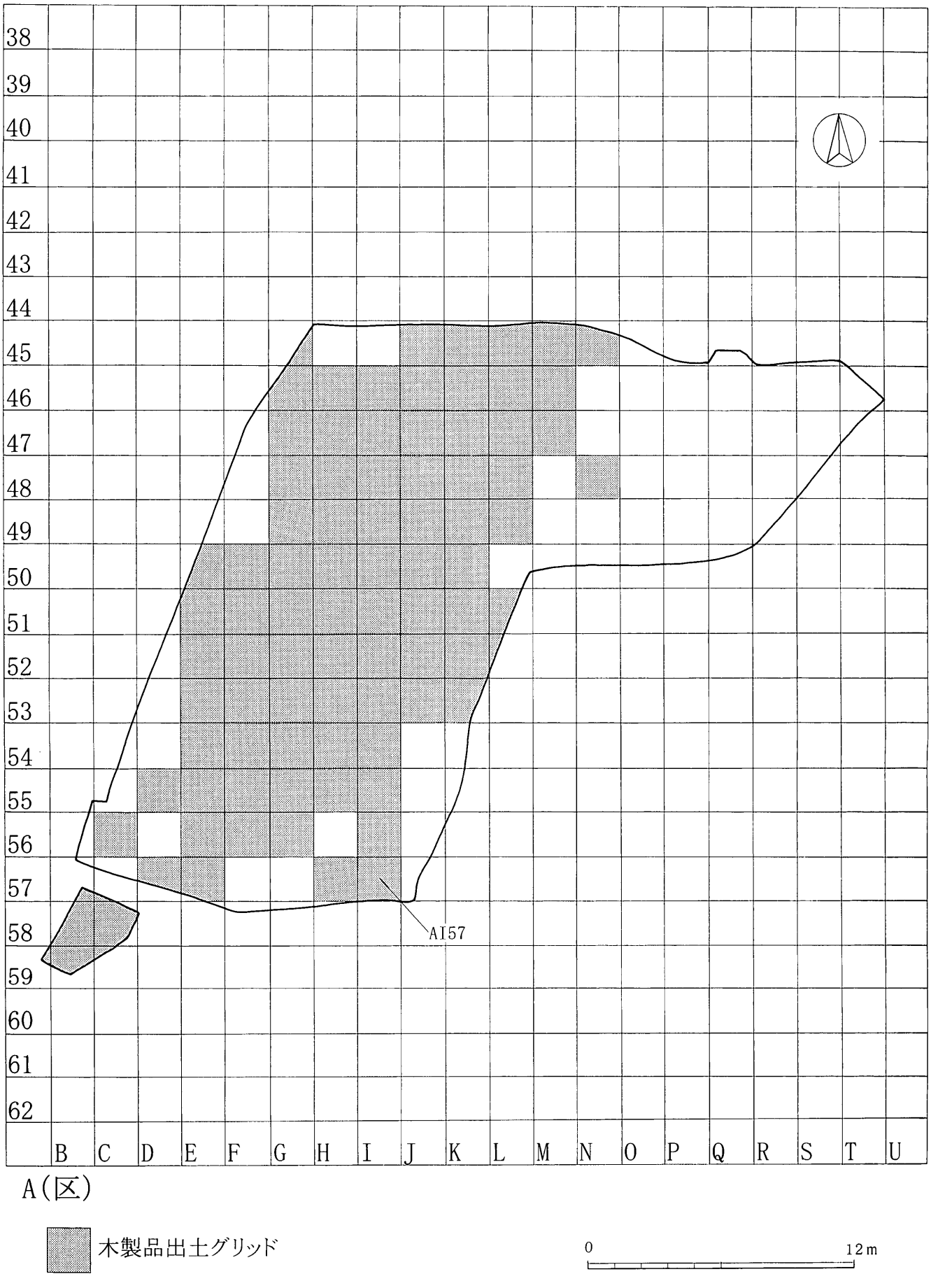
鉄鎌の柄と思われる。柄の基部を有頭状に作りだして先端を斜めに切り落としてあり、直線的な形状を呈す。

編台（14）

編具の部材で、編台目盛板と思われる。両端部が欠損しているため全長は不明だが、上部に刻み目が7箇所見られ、5㎜ほどの深さに切り込まれている。組合せによって10.5㎝と12.5㎝間隔の規則性がみられる。

横槌（15～19）

明確に横槌と判断されるものは5点出土しており、大きさは40㎝前後のもの（15・17～19）と30㎝前後のもの（16）がある。形状は、5点とも円筒状の敲打部から明瞭な肩部を作り出さずに柄部に緩やかに移行し、先端にグリップ状の削り出しをもつもの（16～18）もある。



挿図4　木製品出土グリッド

田下駄（20）

足が直接乗る足板であり、平面形状は縦長長方形を呈す。上下両端に２個ずつの緊縛用の穿孔をもち、その内側に３個の緒孔をもつ。

３．紡織具

紡錘車（21）

薄い板材を円形に加工したもので、断面形は長方形を呈し、厚さは１cmに満たない。中央部が穿孔されている。

杼（22～24）

３点出土している。23は『木器集成図録　原始篇』で「支え木さしこみ式」として分類されるもので、腕木中央部の穿孔が長方形で、支え木接合端部は長方形状に作り出されている。24は「腕木貫通式」として分類されるもので、支え木上端部を木鏃状に厚く作りだし、その中央部を開けて腕木を挿入し、木釘で止めている。腕木の長さは35cm内外のものと70cm内外のものに２分される傾向がみられるが、23・24は前者に分類される。22は腕木貫通式の支え木部で上端部付近に腕木の挿入口及び木釘の留穴が見られる。

４．服飾具

櫛（25～27）

３点出土しており、全て横櫛である。25は端部のみ残存しており、背部から側縁部にかけては直線的である。26は両端を欠損しており、中央部が残存している。背部は直線的である。27は約半分欠損するが、背部から側縁部にかけて丸みを持つ。

下駄（28～34）

資料として掲載したものは７点である。全て足を乗せる台と２枚の歯を一木で作りだした連歯式の下駄である。緒孔の穿孔位置は、全て前壷を左右いずれかの一方によせ、歯の外側にあけ、後壷を後歯の前にあけてある。

28は前壷の穿孔位置から判断して左足用で、台と歯の間に段はなく、前歯と後歯の外側はほぼ垂直に延び、内側は若干外開きとなる。29は後端部が欠損しているが、前壷の穿孔位置から判断して右足用で、台と歯の間に段はなく、前歯と後歯の外側はほぼ垂直に延び、内側は若干外開きとなる。30・31は左右対称で唯一１組となるものである。台と歯の間に段はなく、前歯と後歯が側面から見て若干外開きとなる。32は両端部が欠損しているが、前壷の穿孔位置から判断して右足用で、台と歯の間に段はなく、前歯と後歯の外側はほぼ垂直に延び、内側は若干外開きとなる。33は前壷の穿孔位置から判断して左足用で、台と歯の間に段はなく、前歯と後歯の外側はほぼ垂直に延び、内側は若干外開きとなる。他の下駄に比べて一回り小さい形状である。34は側縁部が欠損して残存範囲が少ないが、前壷の穿孔

位置から判断して左足用で、台と歯の間に段はなく、前歯と後歯が側面から見て若干外開きとなる。

5．容器

槽（35～41）

全体的に欠損範囲の広いものが目立つが、平面形状は長方形を呈するものが多い。その中で37・39・40・41は底面と側面、側面と側面の境が比較的明瞭で、側面の立ち上がりも鋭角的である。35・36・38は側面への立ち上がりが緩やかで、36を除き比較的小型である。

円形・方形刳物容器（42～44）

３点出土している。42は円形を呈し、土師器の杯と同様の形態をとる。底面から屈曲して側面が外方へ延びる。43も円形を呈するが、42に比べて深く、鉢状の形態をとる。44は方形を呈する角鉢状の形態で、42同様に底面から屈曲して側面が外方へ延びる。

曲物（45～72）

出土した曲物は円形、楕円形、方形と思われる底板で、円形のものが多い。51～54・63を除きほとんどが１／２以上欠損している。それ故推定径になるが、最大径は58の約50cmで、最小は66の約10cmである。

底板と側面の結合方法については、底板周縁部の形態から判断できるものがある。45～51は底板内面の縁に沿って低い段を設け、段上に側板を立てる「カキゾコ」である。いずれも段上と段の内側の２箇所に紐孔が穿たれ、桜の樹皮による結合が見られた。45・46は平面形が方形を呈するものである。51は底板に側板の一部が結合された状態で出土した。52～60は底板側面に接して側板をまわす「クレゾコ」である。木釘で底板と側板を結合しており、一部の底板には木釘が残存している。58は平面形が楕円形を呈するものである。

挽物（73）

椀状の破片資料であり、器面の状態が悪いため明確に確認できないが、内面は黒漆が全体に塗られ、その上に赤漆で模様が描かれていたと思われる。

6．食事具

杓子・匙（74・75）

『木器集成図録　原始篇』の分類に基づき、平面形が正円である74を杓子、柄の軸方向に長い楕円形を呈する75を匙とした。74・75とも柄は欠損しているが、身が残存しており、中央部に方形の凹みをもつ。凹みは小さく、実用的ではない。

箸（76～78）

資料として掲載したものは３本で、どれも１／２以上欠損している。木片を小割りにした後、棒状に整形したと思われる。76、77は先端部の加工が見られる。

７．楽器

琴柱（79・80）

２点出土している。79は幅2.5㎝の小型のもので、上底は水平であるが弦受けの溝は見られない。台形の両斜辺をほぼ垂直に切り落とし、下底中央部を三角形状に切り欠いている。『木器集成図録　近畿古代篇』でＡ型式とされるものである。80は幅12.4㎝を計る大型のものである。上底は水平であるが弦受けの溝は見られない。下底中央部を三角形状に切り欠いている。Ｂ型式とされるものである。

８．祭祀具

刀形（81・82）

資料として掲載したものは２点である。いずれも抜身の状態を表現したものである。把部の表現方法について、81は内側に大きな抉り、外側で若干の抉りを加えて表現している。82は81と同様の表現であるが、端部は欠損している。

鏃形（83・84）

資料として掲載したものは２点である。いずれも欠損はしているが、身から矢柄までを表現しているものである。身の形態は、先端から矢柄まで稜をもたず滑らかに推移している。

人形（85・86）

85は全長が約11㎝と小型であるが、頭部には目・口を表現していると思われる刻みが施されており、胴部側面には方形の穿孔が２箇所みられる。86は板材の一端を円形に加工して頭部としている。もう一方の端部も削りの加工がされて丸みをおびている。

舟形（87～91）

資料として掲載したものは５点である。87は１／３ほど欠損しているが、緩やかな曲線で船首（船尾）が表現され、内面も形状に沿って刳りぬかれている。88は船首部分に若干の抉りが見られ、船尾部分が直線的である。内面は長方形状に刳りぬかれているが、そこから前方に溝状の刳りぬきが見られる。89は平面形態が87に類似しており、内面は長方形状に刳りぬかれている。90は船首が鋭角的に表現され、内面も長方形状に刳りぬかれている。船尾は切断されているのか直線的である。比較的大型のもので、槽の可能性もある。91は１／２ほど欠損しているが、平面形態は90と類似している。内面は形状に沿って大きく刳りぬかれており、90同様に槽の可能性もある。

馬形（92～96）

資料として掲載したものは５点である。いずれも鞍を持たない裸馬を表現していると思われ、胴部と頭部の境をあらわす切欠き等を入れている簡素な表現をとる『木器集成図録　近畿古代篇』でAI型式とされるものである。比較的厚い板材を加工しているものが多い。

鳥形（97）

破片資料であり、鳥の羽部分を表現したものと思われる。

9．部材

建築部材（98・99）

資料として掲載したものは２点である。具体的な用途は不明であるが、大型の加工された木製品であるため建築部材とした。98は、上端部に方形の穿孔がみられ、その下方に梯子の足掛け部のような加工が１箇所みられる。99は、欠損範囲が広いため全容が不明であるが、円形、長方形状の穿孔部が見られ、別材と組み合わせて用いる部材と思われる。

留具状木製品（100～102）

３点とも頭部は方形を呈し、挿入部と思われる部分に方形の穿孔がみられる。挿入部を別材に差し込み、方形穴に棒状のものを挿入して留めたものと思われる。

10．その他

個々の遺物について、何らかの製品である可能性が高いが、明確に断定できないもの、また、その用途が特定できないものを一括した。

杓子形木製品（103～109）

103、105、106は程度の差はあるが、柄と身の境が明瞭で、身が長方形状に長いものである。104は柄から身への移行が漸移的なもので境が不明瞭なものである。107は柄が欠損しているもので、柄から身に向かって幅が広くなり、身の端部付近で最大幅をとるものである。

108・109は羽子板状のもので、他のものより形状が大きい。108は、柄の端部付近に穿孔が見られる。

両端加工木製品（110～115）

細長い板状木材の両端に抉り等の加工を加えているものである。先端部の加工が直線のものと丸みを帯びるものとがある。その用途は特定できないが、織機の部材、田下駄の部材に類似例が見られる。

有頭状木製品（116～127）

細長い板状、棒状木材の一端に加工を加えているものを一括した。

116・117・119～122は、その一端に抉り等の加工を加えているもので、もう一端が欠損していることから両端加工木製品と同様の性格を持つ可能性が考えられる。118はその一端が削られて広い範囲で炭化がみられる。123・124は他のものと比較して細かな加工がみられる。125～127は、その一端が方形に加工されたもので、その一部が欠損しているもののどれも比較的全長が長く、柄状のものである。

先端加工木製品（128～134）

先端部が鋭角的に加工されているものを一括した。一端が欠損しているものが多く、全体の形状が不明である。

その他（135～162）

形状が様々なもので、その用途が特定できないものを一括した。

第6節　結語

農工具について

恒川遺跡群から出土した農工具で、今回資料として掲載したものは、斧柄1点、鍬1点、鍬類7点、鋤類2点、鎌柄2点、目盛板1点、横槌5点、田下駄1点であり、未掲載のものを含めても出土木製品全体の中に占める農工具の割合は低いといえる。

これらの中で、その形状に時代的特徴を顕著に示すものは鍬類である。掲載した7点の内訳は曲柄平鍬3点、曲柄又鍬2点、直柄又鍬1点、横鍬1点であり、曲柄平鍬・又鍬5点は、全て着柄軸が「ナスビ形」を示すものであった。「東海系曲柄鍬」（樋上　1993）と呼称される着柄軸が棒状になるものはみられなかった。この中の曲柄平鍬（3）については、刃部に三角形の透かしが見られ、北信地域の石川条里遺跡、川田条里遺跡、榎田遺跡出土の曲柄平鍬の透かしが流線形を呈しているのに対し特徴的である。また、この5点のうち2点（5・7）について、鉄刃が装着された痕跡がみられた。3点（3・4・8）については刃部の残存状態が悪く不明である。

当地域における木製農具の出土事例は極めて少ないが、辻前遺跡の10号住居址において木製品がまとまって出土している（飯田市教委　2003）。ここでもナスビ形の曲柄又鍬が3点出土しており、そのうちの2点に鉄刃が装着されていた痕跡がみられることから5世紀後半の年代が与えられており、遺構の年代とも調和的である。この背景として、5世紀中頃における近畿系ナスビ形曲柄鍬への鉄刃装着により、それまでナスビ形曲柄鍬を受容しなかった東海系曲柄鍬の分布域にナスビ形曲柄鍬が流入し、次第に転換される様相が想定されている。恒川遺跡群においても、東海系曲柄鍬がみられず、鉄刃を装着するナスビ形曲柄鍬の出土がみられる事から、同様な背景が推測され、農具に関していえば5世紀後半から7世紀の年代が想定され得る。

その他の農具として特筆されるものは、直柄又鍬（6）で、方形の柄孔がみられる。また、県内では川田条里遺跡でのみ出土が確認されている編台目盛板が1点出土している。

祭祀具について

祭祀具として今回掲載したものは、人形２点、刀形２点、鏃形２点、舟形５点、馬形５点、鳥形１点である。また、斎串の可能性も考えられる先端加工木製品が７点出土している。

遺物は５層を中心に出土しているが、出土地点は調査区内の多岐にわたり、集中して出土していると断定できる地点はみられない。また、砂や砂利等の堆積もみられるため北側からの流れ込みの可能性もあり、出土地点が遺物の原位置を示すとは断定できない。

恒川Ａ地籍からは、現在整理中であるが木製祭祀具の他にも玉類、石製模造品等が出土しており、周辺部において何らかの祭祀行為がなされた可能性が想定される。調査区北側には、古来よりの湧水地点である「恒川清水」が位置しており、おそらくここを起点に祭祀行為が行われものと思われる。この祭祀行為については、木製祭祀具以外の遺物、遺構も含めて内容等を総合的に検討していく必要があり、今後の大きな課題である。

木簡について

恒川Ａ地籍からは、恒川遺跡群で唯一の「木簡」が１点出土している。詳細については「恒川遺跡群（官衙編）」（飯田市教委　2007）に資料を記載してあるので参照されたい。この木簡の出土地点は、木製品が出土している調査区の南側に位置する独立したグリッドであるＧ４地点であり（挿図３）、基盤付近の砂層より出土している。周辺からは中近世～奈良時代にかけての遺物が混在して出土しており、上流部より流れ込んでいる可能性があり、層位的に時期を判断できていない。その他の木製品を概観しても木簡等の官衙に関連するものはみられず、現存する木製品と官衙的遺構との関係については不明な部分が多いといえる。

おわりに

恒川遺跡群の発掘調査から今年で30年近くが経とうとしている。近年では官衙遺跡としての性格が明らかになりつつあり、調査研究が進んでいる。しかし、恒川Ａ地籍より出土した木製品遺物については実測、保存処理等の整理作業は行われていたが、一部を除いて長い期間保管されたままの状態になっていた。それ故、今回の報告書において資料を提示するに至った。しかし、30年前の状況を把握するために調査図面類の整理に時間を要し、今回は限られた時間の中で基本資料の提示を第一の目的とした。そのため、遺物の詳細な考察等が不十分であり、今後の課題とした部分が多くなったが、木製品が出土した恒川Ａ地籍の性格を考えるためには、他の出土遺物や隣接する恒川Ｂ地籍も含めた総合的な検討が必要不可欠である。

今後の大きな課題として、資料の整理を継続的にすすめ、恒川Ａ・Ｂ両地籍を含めた「恒川清水」周辺地域の実体の解明に努めていきたい。

引用参考文献

飯田市教育委員会　1986　『恒川遺跡群』

飯田市教育委員会　2003　『辻前遺跡』

飯田市教育委員会　2007　『恒川遺跡群（官衙編）』

(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所　1994　『古代における農具の変遷』

寺内隆夫・宮島義和　1996　「奈良時代　木製祭祀具の廃棄ブロックについて－長野県屋代遺跡群⑥区の調査より－」『考古学ジャーナル』398

長野県埋蔵文化財センター　1997　『石川条里遺跡』上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書15

長野県埋蔵文化財センター　1999　『榎田遺跡』上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書12

長野県埋蔵文化財センター　1999　『更埴条里遺跡・屋代遺跡群　古代１編』上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書26

長野県埋蔵文化財センター　2000　『川田条里遺跡　第２分冊（遺物編）』上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書10

奈良国立文化財研究所　1985　『木器集成図録　近畿古代篇』奈良国立文化財研究所史料第27冊

奈良国立文化財研究所　1993　『木器集成図録　近畿原始篇』奈良国立文化財研究所史料第36冊

樋上　昇　1989　「木製農耕具の地域色とその変遷－勝川遺跡出土資料を中心として－」『(財)愛知県埋蔵文化財センター年報　昭和63年度』

樋上　昇　1993　「木製農耕具研究の一視点－ナスビ形農耕具の出現から消滅まで－」『考古学フォーラム』３

樋上　昇　1994　「耕作のための道具－ナスビ形農耕具を中心に－」『季刊考古学』47

樋上　昇　2000　「東海系曲鍬再論」『考古学フォーラム』12

樋上　昇　2002　「曲柄鍬の伝播と流通」『考古学ジャーナル』486

埋蔵文化財研究会　1996　「古代の木製食器－弥生期から平安期にかけての木製食器－」

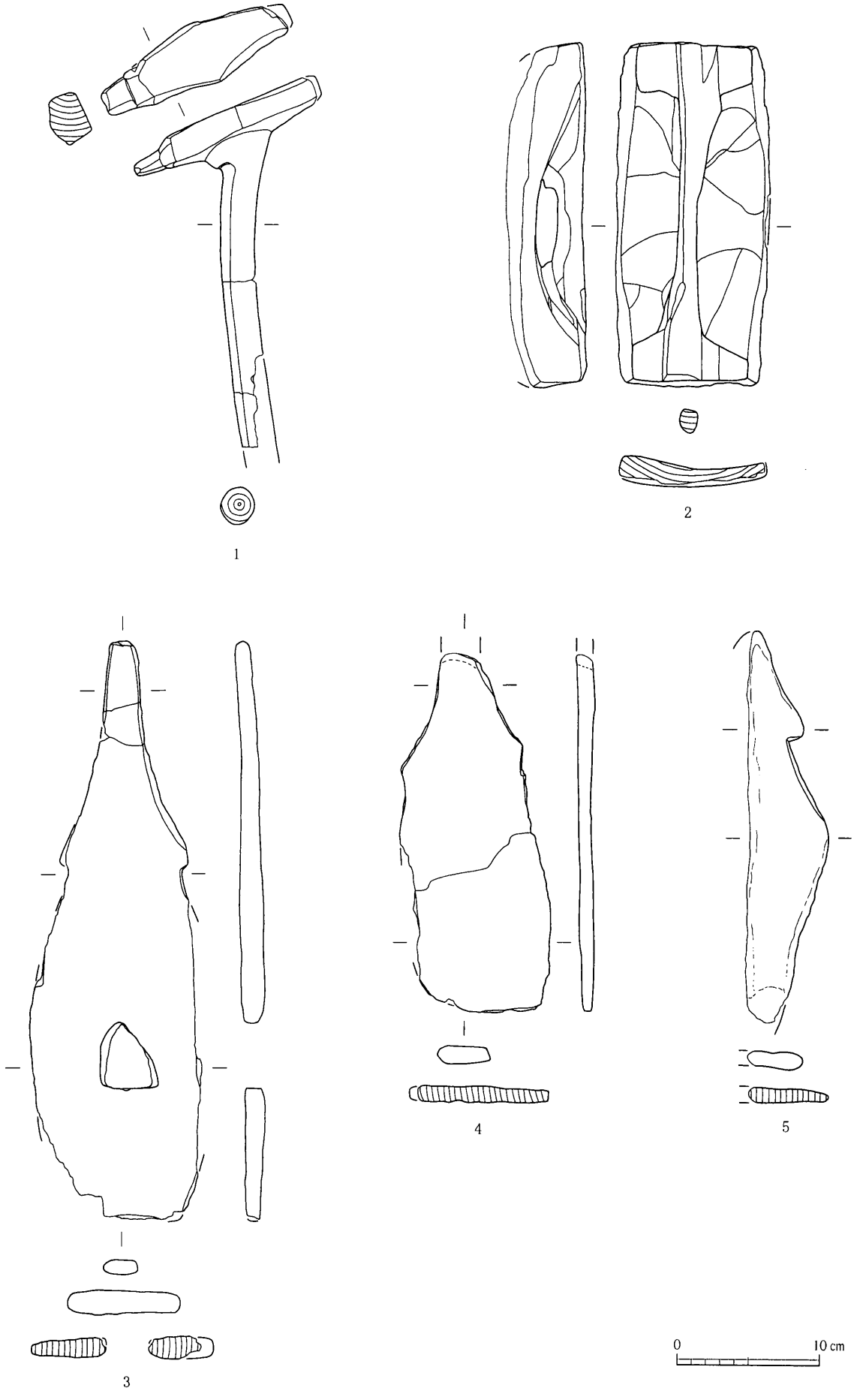
松井和幸　1987　「日本古代の鉄製鍬先、鋤先について」『考古学雑誌』72－３

三重県埋蔵文化財センター　2000　『六大Ａ遺跡発掘調査報告（木製品編）』

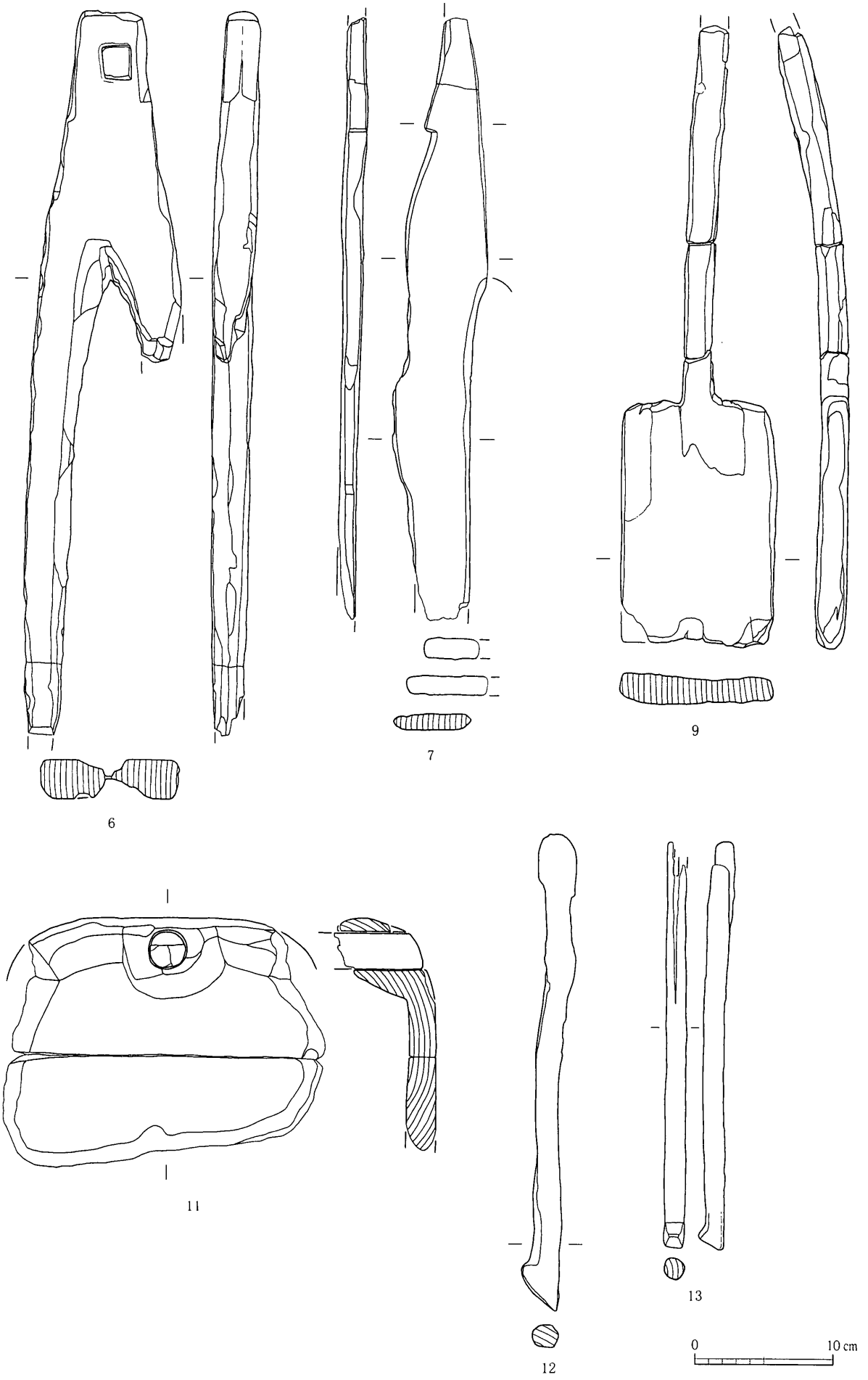
第1表　木製品観察表

No.	挿図No.	実測図No.	項目	器種	法量(cm)			木取り	出土グリッド	層位	備考
					全長	幅	厚さ				
1	5	1-99	工具	斧柄	(25.5)	装着部	装着部2.5	丸木芯もち材	AF54	5層	
2	5	1-100	工具	鑿	24	9.5	5	板目材	AH52	5層	
3	5	1-82	農具	平鍬	40	(12)	1.5	柾目材	AH52	5層	ナスビ形
4	5	1-78	農具	平鍬	(25)	(9)	1	柾目材	AI48	6層	ナスビ形
5	5	3-58	農具	平鍬	(27.4)	(5.6)	1.2	柾目材	AJ51	5層	ナスビ形
6	6	1-83	農具	又鍬	(52.2)	(5.3)	2.8	柾目材	AI52	5層	
7	6	3-21	農具	又鍬	(43.3)	(6)	1.4	柾目材	AF52	5層	ナスビ形
8	図版13	―	農具	又鍬	(39)	(9)	0.8	柾目材	―	―	ナスビ形
9	6	1-81	農具	鋤	(44.6)	11.2	2.2	柾目材	3トレ	―	
10	図版14	―	農具	多又鋤	(21)	(11.5)	3	柾目材	―	―	
11	6	1-68	農具	横鍬	17.5	(23.5)	7.4	柾目材	AG47	6層	
12	6	1-96	農具	鎌柄	34	2.8	1	丸木芯もち材	AJ50	―	
13	6	1-86	農具	鎌柄	29.8	1.6	1.6	丸木芯もち材	AE53	5層	
14	7	1-111	農具	編台	(48)	4.8	2.5	斜め材	AF52	5層	編台目盛板
15	7	1-92	農具	横槌	(38)	5.5	4.5	丸木削り出し	AJ48	5層	
16	7	1-90	農具	横槌	30.2	4.6	5	丸木削り出し	AI50	―	
17	7	1-95	農具	横槌	(43.5)	4.5	4	丸木削り出し	AG53	6層	
18	7	1-93	農具	横槌	43	4.5	5	丸木削り出し	AI50	―	
19	7	1-89	農具	横槌	40	6.6	6.6	丸木芯もち材	AK45	―	
20	7	1-97	農具	田下駄	42.6	9	1.7	板目材	AG50	5層	
21	7	1-106	紡織具	紡錘車	7	6	0.4	板目材	AF54	5層	
22	7	1-108	紡織具	□	23	2.2	1.2	板目材	AE56	5層	支え木
23	8	1-107	紡織具	□	28.7	28.2	2.5	丸木削り出し	AF54	5層	支え木差込式
24	8	1-109	紡織具	□	(29.3)	(21)	3	丸木削り出し	AF51	5層	腕木貫通式
25	8	1-3	服飾具	櫛	(4)	(4)	0.8	板目材	AI52	5層	
26	8	1-2	服飾具	櫛	(4)	4.5	1	板目材	AI52	5層	
27	8	1-114	服飾具	櫛	(5.4)	(4.2)	1	板目材	AJ49	―	
28	8	1-115	服飾具	下駄	25.7	10.5	4	板目材	AL45	―	左足用
29	8	1-121	服飾具	下駄	25.5	11.8	3.6	斜め材	AJ51	5層	右足用
30	9	1-116	服飾具	下駄	24.3	9.5	3.5	板目材	AF51	3層	左足用
31	9	1-116	服飾具	下駄	24.3	9.5	3.5	板目材	AF51	3層	右足用
32	9	1-118	服飾具	下駄	(19.2)	(10)	4.2	板目材	AL46	―	右足用
33	9	1-117	服飾具	下駄	14.5	7	1.3	板目材	AK47	6層	左足用
34	9	1-122	服飾具	下駄	23.9	7.7	3.2	板目材	AG55	―	左足用
35	9	1-20	容器	刳物	28.7	(11)	3.4	板目材	AH52	5層	
36	9	1-24	容器	刳物	(35.4)	(6.2)	(4)	板目材	AG50	5層	
37	9	1-18	容器	刳物	(12.6)	13.4	5.3	板目材	AE51	5層	
38	9	1-19	容器	刳物	(6.1)	(2.3)	(1)	板目材	AH51	5層	
39	10	1-23	容器	刳物	(33.6)	(16.8)	5.6	板目材	AI49	5層	
40	10	1-25	容器	刳物	(30.5)	(7.5)	(6)	板目材	AH53	5層	
41	10	1-17	容器	刳物	37	(18)	6	斜め材	AE52	5層	
42	11	1-27	容器	刳物	12.9	11	4		AH57	5層	
43	11	1-28	容器	刳物	(12.8)	12	(5)		AG53	5層	
44	11	1-29	容器	刳物	13.9	(11)	2.9		AF53	5層	
45	11	3-158	容器	曲物	35(径)		1.3	板目材	AH53	5層	カキゾコ
46	11	1-48	容器	曲物	36(径)		0.8	板目材	AG53	5層	カキゾコ
47	11	1-41	容器	曲物	(18.1)(径)		1.1	斜め材	AI52	5層	カキゾコ
48	11	1-35	容器	曲物	(16.5)(径)		1	柾目材	AH49	5層	カキゾコ
49	11	3-157	容器	曲物	18.5(径)		0.9	斜め材	AG53	5層	カキゾコ
50	11	3-153	容器	曲物	(19.6)(径)		1.2	板目材	AI52	5層	カキゾコ
51	11	3-156	容器	曲物	14(径)		0.4	斜め材	AH53	5層	カキゾコ
52	12	3-152	容器	曲物	15.4(径)		0.9	板目材	AE54	5層	クレゾコ
53	12	3-155	容器	曲物	23.5(径)		0.9	板目材	AF53	5層	クレゾコ
54	12	3-154	容器	曲物	14.6(径)		0.8	板目材	AF53	5層	クレゾコ
55	12	1-46	容器	曲物	(22.4)(径)		1.1	板目材	AK44	5層	クレゾコ
56	12	1-45	容器	曲物	(19.6)(径)		1.2	板目材	AL45	6層	クレゾコ
57	12	1-31	容器	曲物	(37)(径)		1.2	板目材	AF53	5層	クレゾコ
58	12	1-53	容器	曲物	(50)(径)		1.7	板目材	AG51	5層	クレゾコ
59	12	1-37	容器	曲物	(12.8)(径)		1.2	斜め材	AG52	5層	クレゾコ
60	12	1-44	容器	曲物	(13)(径)		1	板目材	AJ50	―	クレゾコ
61	12	1-43	容器	曲物	11.7(径)		0.6	斜め材	AK45・46	―	
62	12	1-36	容器	曲物	(13.5)(径)		1.1	斜め材	AD55	5層	
63	13	1-30	容器	曲物	14.6(径)		1.2	板目材	AG49	6層	
64	13	1-33	容器	曲物	(16.9)(径)		1.1	板目材	AH51	6層	
65	13	1-38	容器	曲物	(16.8)(径)		0.9	柾目材	AH53	5層	
66	13	1-34	容器	曲物	(9.7)(径)		0.7	板目材	AF53	5層	
67	13	1-52	容器	曲物	(14.4)(径)		0.8	柾目材	AH48	6層	
68	13	1-40	容器	曲物	(16.9)(径)		0.9	斜め材	3トレンチ	5層	
69	13	1-51	容器	曲物	(33.4)(径)		1.7	板目材	AG50	5層	
70	13	1-49	容器	曲物	(19.7)(径)		1	板目材	AH51	5層	
71	13	1-32	容器	曲物	(17.9)(径)		0.9	斜め材	AF54	5層	
72	13	1-39	容器	曲物	(25.1)(径)		1.1	斜め材	AH50	5層	
73	13	1-13	容器	挽物					―	―	
74	13	1-6	食事具	杓子	(20.5)	10.5	5	板目材	AH50	5層	
75	13	1-12	食事具	匙	(19)	8.5	4	板目材	AH50	5層	
76	13	1-12	食事具	箸	(6.5)	(0.7)	(0.6)	丸木削り出し	AJ52	―	
77	13	1-10	食事具	箸	(8.2)	(1.3)	(0.4)	丸木削り出し	AL45	―	
78	13	1-11	食事具	箸	(11)	(0.8)		丸木削り出し	AK47	5層	
79	14	3-83	楽器	琴柱	2.5	4.1	0.9	板目材	AG・AH50	5層	
80	14	3-82	楽器	琴柱	12.4	7.3	2.2	板目材	AF52	5層	
81	14	2-8	祭祀	刀形	44.8	3	1	板目材	AE51	5層	

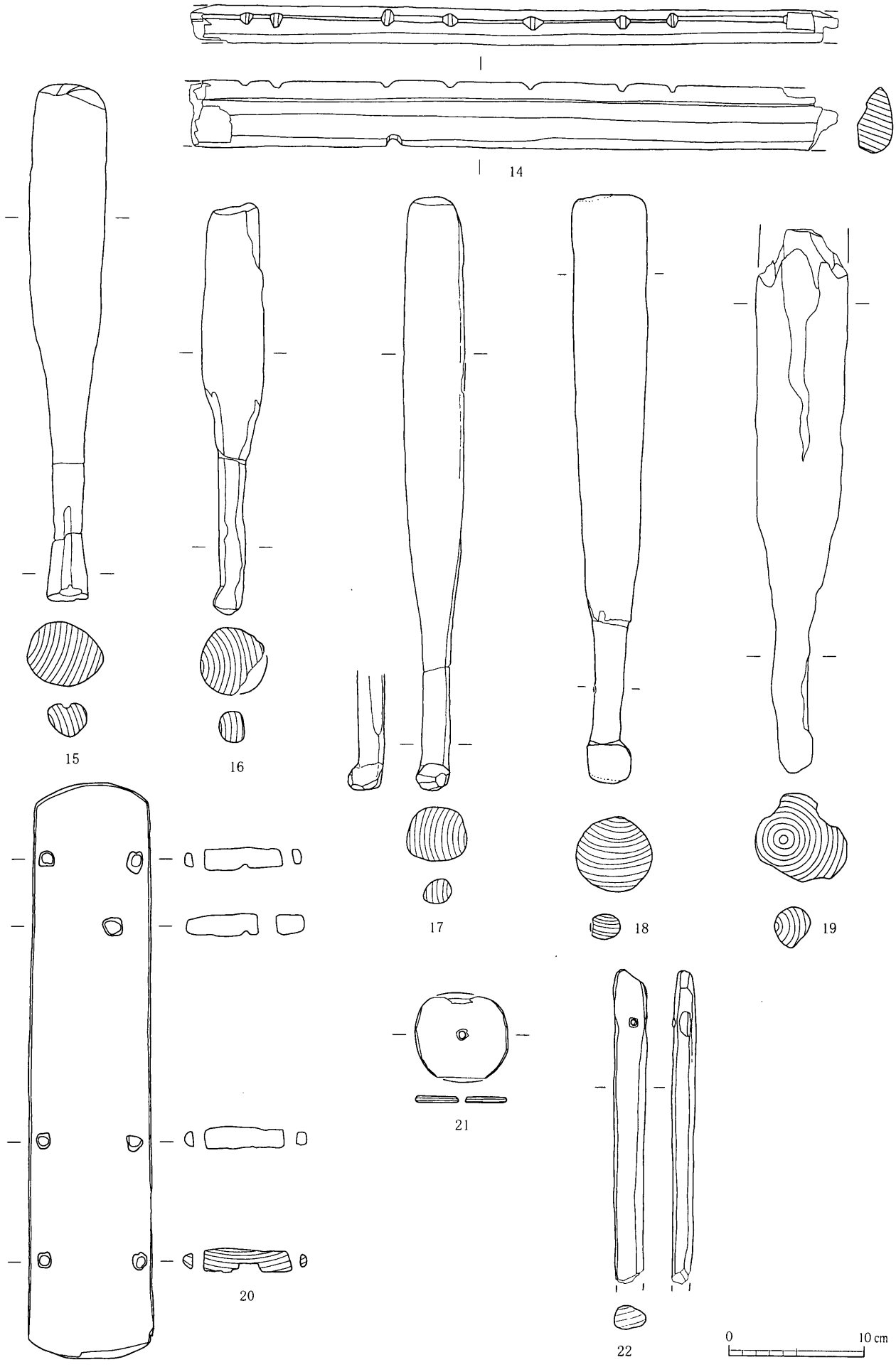
82	14	3-179	祭祀	刀形	41	3	0.9	柾目材	AJ46	5層	
83	14	1-105	祭祀	鏃形	10	2	2	丸木削り出し	AH48	5層	
84	14	1-104	祭祀	鏃形	14.7	1.5	1.5	丸木削り出し	AH51	5層	
85	14	1-54	祭祀	人形	11.2	1.2	1.6	斜め材	AJ51	—	
86	14	1-55	祭祀	人形	21	4.5	1.8	柾目材	AJ45	5層	
87	14	1-65	祭祀	舟形	(16.6)	2.9	0.8	板目材	AK46	5層	
88	14	1-67	祭祀	舟形	24	4.3	1	柾目材	AG53	5層	
89	14	1-64	祭祀	舟形	12.4	2.3	1.2	柾目材	AK46	5層	
90	14	1-63	祭祀	舟形	(19.5)	8	3.5	柾目材	AF54	6層	
91	14	1-72	祭祀	舟形	(18.4)	(8.2)	4.1	柾目材	AF50	3層	
92	15	1-57	祭祀	馬形	(24.8)	4.8	2.9	板目材	AH47	6層	
93	15	1-61	祭祀	馬形	(23)	4	3	板目材	AJ44	5層	
94	15	1-58	祭祀	馬形	(16.2)	2.7	1.3	板目材	AH50	5層	
95	15	1-59	祭祀	馬形	(11.2)	4	1	柾目材	AH52	5層	
96	15	1-60	祭祀	馬形	(9.5)	3	0.7	斜め材	AH53	5層	
97	15	3-196	祭祀	鳥形	(8)	(4.2)	0.6	柾目材	AH51	溝址4	
98	15	3-95	部材	建築部材	(96)	13.8	6	板目材	AL46	—	
99	15	3-31	部材	建築部材	112.5	11	4.2	斜め材	AI49	—	
100	15	3-103	部材	留具	16.3	7.5	3.4	斜め材	AG51	5層	
101	15	3-109	部材	留具	17.6	6.7	3.1	板目材	AH50	5層	
102	15	3-48	部材	留具	27	5	3	板目材	AG50	5層	
103	16	3-190	その他	杓子状	50.8	3.8	1.3	斜め材	AK47	6層	
104	16	1-62	その他	杓子状	37.6	2.4	1.3	柾目材	AI48	6層	
105	16	2-66	その他	杓子状	41	2.3	1	板目材	AG52	5層	
106	16	1-9	その他	杓子状	(27.9)	2.7	1.4	柾目材	AF53	5層	
107	16	1-1	その他	杓子状	(14)	4.2	1	柾目材	AH50	5層	
108	16	3-56	その他	杓子状	27.8	(5.6)	0.8	板目材	AI52	5層	
109	16	1-8	その他	杓子状	40.4	6.7	1.4	板目材	AG52	—	
110	16	3-147	その他	両端加工	40.5	4.2	2.6	板目材	AF50	5層	
111	16	3-51	その他	両端加工	56.8	3.8	1.8	板目材	AM45	6層	
112	17	3-149	その他	両端加工	34.6	5.2	2	斜め材	AI46	5層	
113	17	3-150	その他	両端加工	29.6	4.4	2.2	柾目材	AI52	5層	
114	17	3-148	その他	両端加工	29.5	4.3	1.8	板目材	AE51	5層	
115	17	1-74	その他	両端加工	29	5.2	1	板目材	AK48	6層	
116	17	2-12	その他	有頭状	(22.9)	5	1.9	板目材	AF53	—	
117	17	3-191	その他	有頭状	(22.8)	4.8	(2.6)	板目材	AK48	5層	
118	17	2-7	その他	有頭状	(21)	3.8	2	柾目材	AF51	5層	
119	17	2-16	その他	有頭状	(17)	2.8	2	板目材	AG50	5層	
120	17	2-13	その他	有頭状	(13)	2.2	1.3	板目材	AG49	5層	
121	17	2-4	その他	有頭状	(20)	2.5	1.5	板目材	AH50	—	
122	17	2-14	その他	有頭状	(59.5)	2.8	1.6	板目材	AG54	5層	
123	17	2-1	その他	有頭状	52.3	2.7	2.1	板目材	AH52	5層	
124	18	2-3	その他	有頭状	(11.5)	3.6	2.3	板目材	AK44	5層	
125	18	3-52	その他	有頭状	(22.5)	6.6	3.6	板目材	AJ45	5層	柄状
126	18	3-68	その他	有頭状	38.5	7.5	2.7	板目材	AG51	5層	柄状
127	18	3-53	その他	有頭状	58.5	7.5	2.5	板目材	AE53	5層	柄状
128	18	2-105	その他	先端加工	18.2	2	0.9	板目材	AH49	5層	
129	18	3-200	その他	先端加工	19.5	3.4	0.6	板目材	AH51	5層	
130	18	3-92	その他	先端加工	37.3	6.2	1	斜め材	AI53	5層	
131	18	3-50	その他	先端加工	10	2.8	0.5	柾目材	AH50	5層	
132	18	3-162	その他	先端加工	23.6	3.2	1.5	板目材	AK46	5層	
133	18	3-163	その他	先端加工	29	3.7	0.6	柾目材	AH48	6層	
134	18	3-84	その他	先端加工	11.2	2.8	0.6	板目材	AF54	5層	
135	19	3-64	その他	用途不明	24.8	17.3	1.5	板目材	AF53	5層	
136	19	1-240	その他	用途不明	(26.3)	(12.1)	1.6	板目材	AF54	5層	
137	19	1-71	その他	用途不明	30.2	19.4	8.9	板目材	AG53	5層	
138	19	1-4	その他	用途不明	38	8.4	2.5	板目材	G-X	—	
139	19	2-100	その他	用途不明	51	4	3.5	丸木削り出し	AK49	6層	
140	20	3-65	その他	用途不明	54.5	11	1	板目材	AG51	5層	
141	20	3-69	その他	用途不明	54	7	4.5	板目材	AH50	5層	
142	20	1-80	その他	用途不明	55.6	6.2	2.5	柾目材	AF56	5層	
143	20	3-33	その他	用途不明	27	16	1.5	斜め材	AL45	6層	
144	20	3-20	その他	用途不明	25.5	10	2	板目材	AF52	5層	
145	20	3-119	その他	用途不明	19.9	7	3.7	板目材	AF54	5層	
146	21	3-171	その他	用途不明	30.5	4	2	板目材	AE55	5層	
147	21	3-108	その他	用途不明	24.3	5.3	2.1	柾目材	AF50	5層	
148	21	3-49	その他	用途不明	19.9	3.8	2	斜め材	AH49	5層	
149	21	1-98	その他	用途不明	(14)	12.5	1.8	丸木削り出し/丸木芯もち材	AJ51	5層	
150	21	2-55	その他	用途不明	37.6	3.2	1.4	柾目材	AI53	5層	
151	21	2-88	その他	用途不明	25.5	2	1.7	丸木削り出し	AG53	5層	
152	21	1-113	その他	用途不明	16	2.5	2	板目材	AI47	6層	
153	21	1-102	その他	用途不明	16	2.6	2.2	丸木削り出し	AG49	5層	
154	21	3-104	その他	用途不明	15.2	4.6	3.2	丸木削り出し	AF51	5層	
155	21	3-89	その他	用途不明	4.3	3.5	2.9	丸木削り出し	AF52	4層	
156	21	3-88	その他	用途不明	5.2	1.8	1.5	柾目材	AL45	6層	
157	21	3-145	その他	用途不明	8.5	5	1.5	板目材	AF55	5層	
158	21	3-116	その他	用途不明	(12.6)	(4.6)	(0.8)	柾目材	AH50・51	5層	
159	21	3-136	その他	用途不明	18.5	6.4	1.6	板目材	AH52	5層	
160	21	3-99	その他	用途不明	(15.5)	3.5	1	柾目材	AF54	5層	
161	21	3-62	その他	用途不明	14	5.2	1.2	板目材	AE54	5層	
162	21	3-17	その他	用途不明	(9.5)	3.2	2.4	丸木芯もち材	AE52	5層	



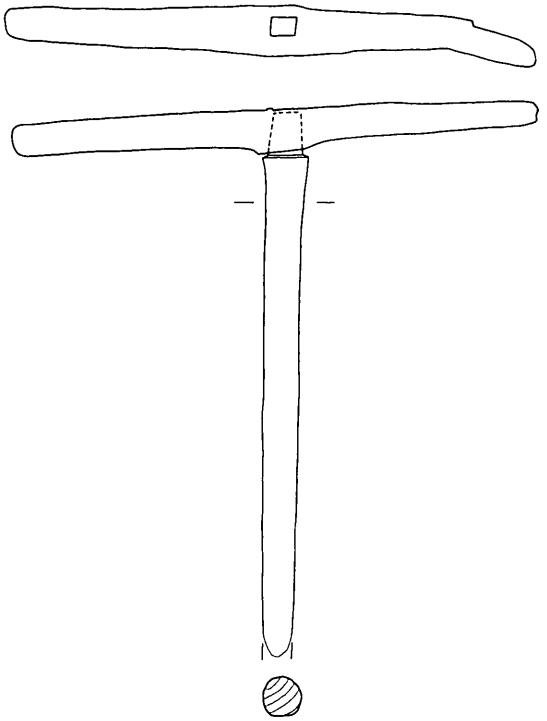
挿図５　工具・農具

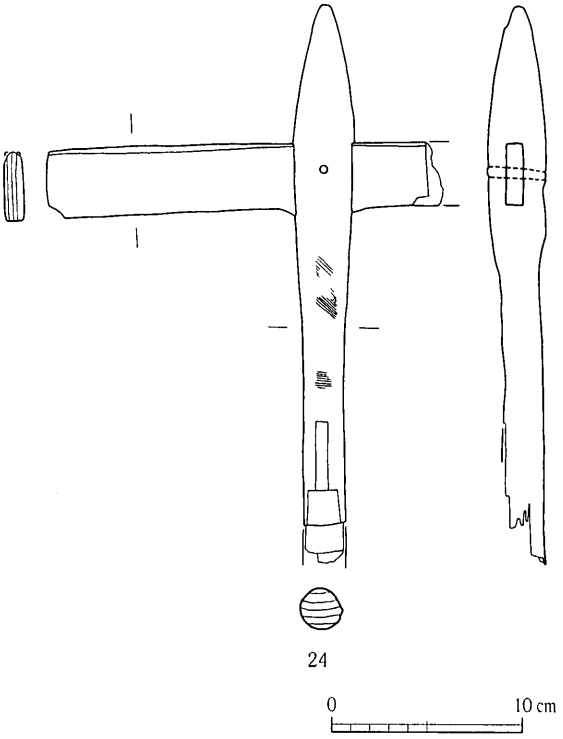


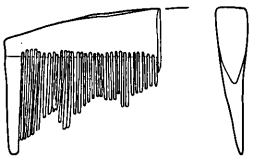
挿図6　農具

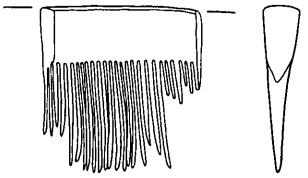


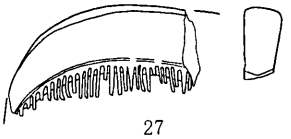
挿図７　農具・紡織具

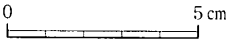


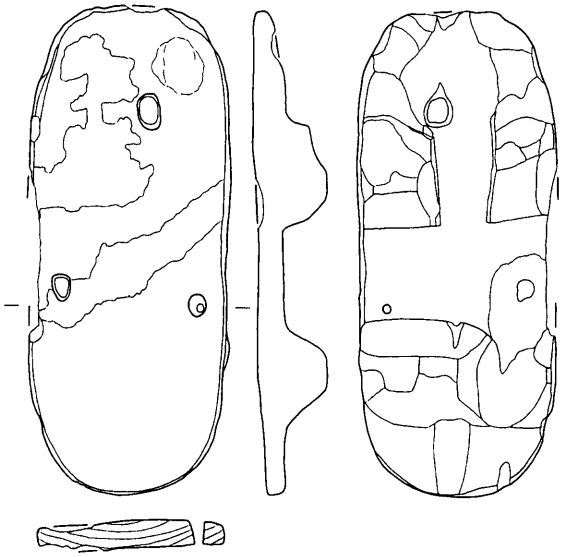


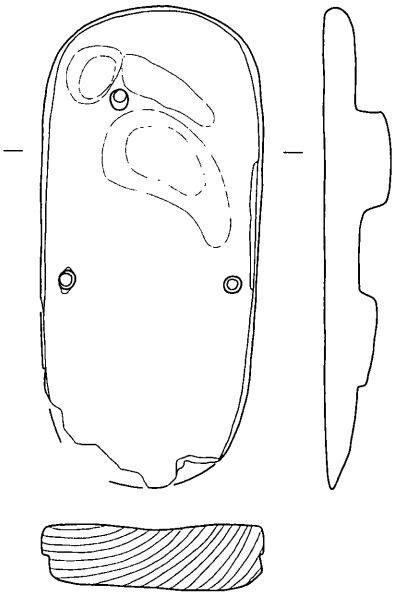


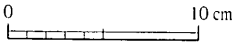




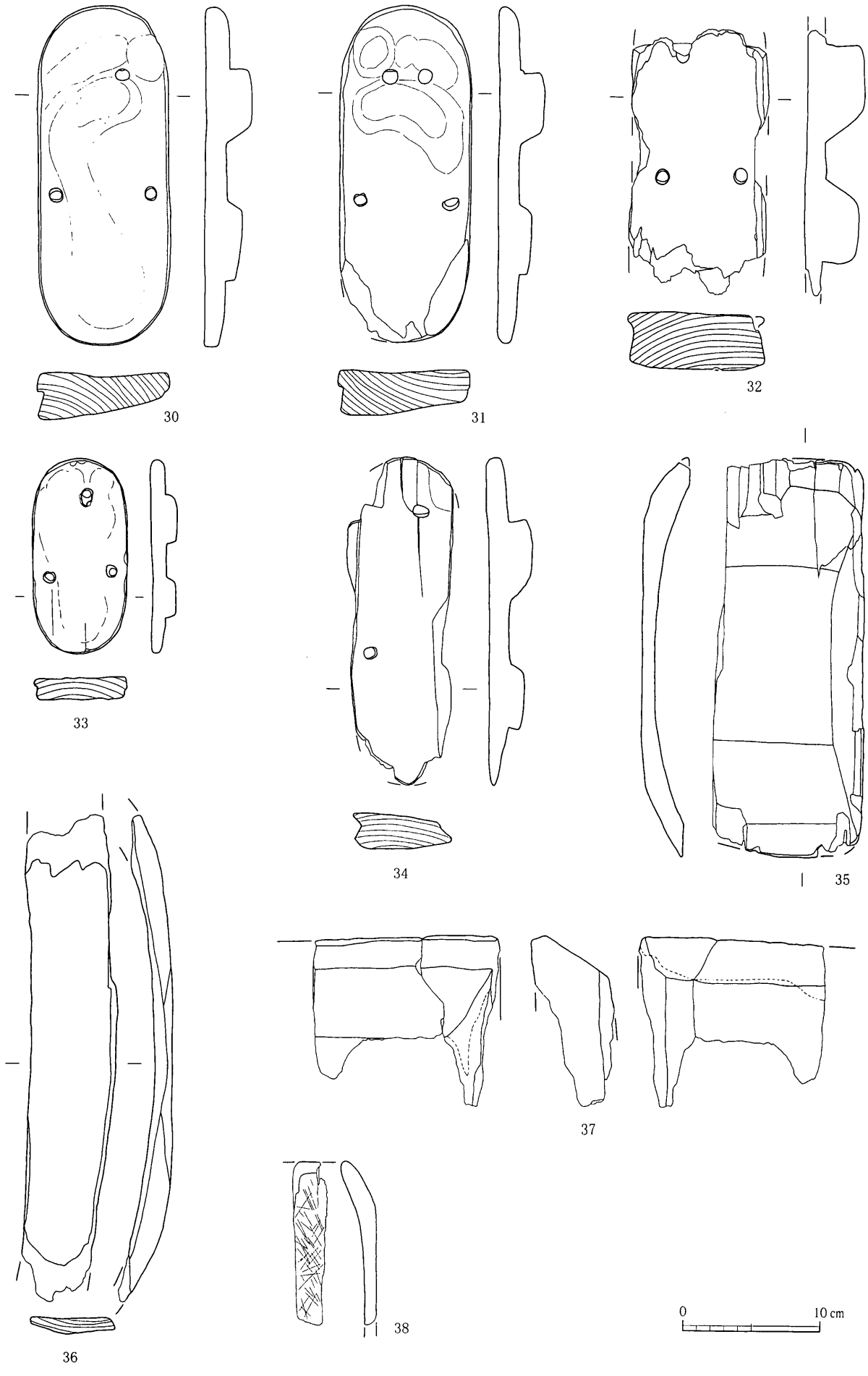




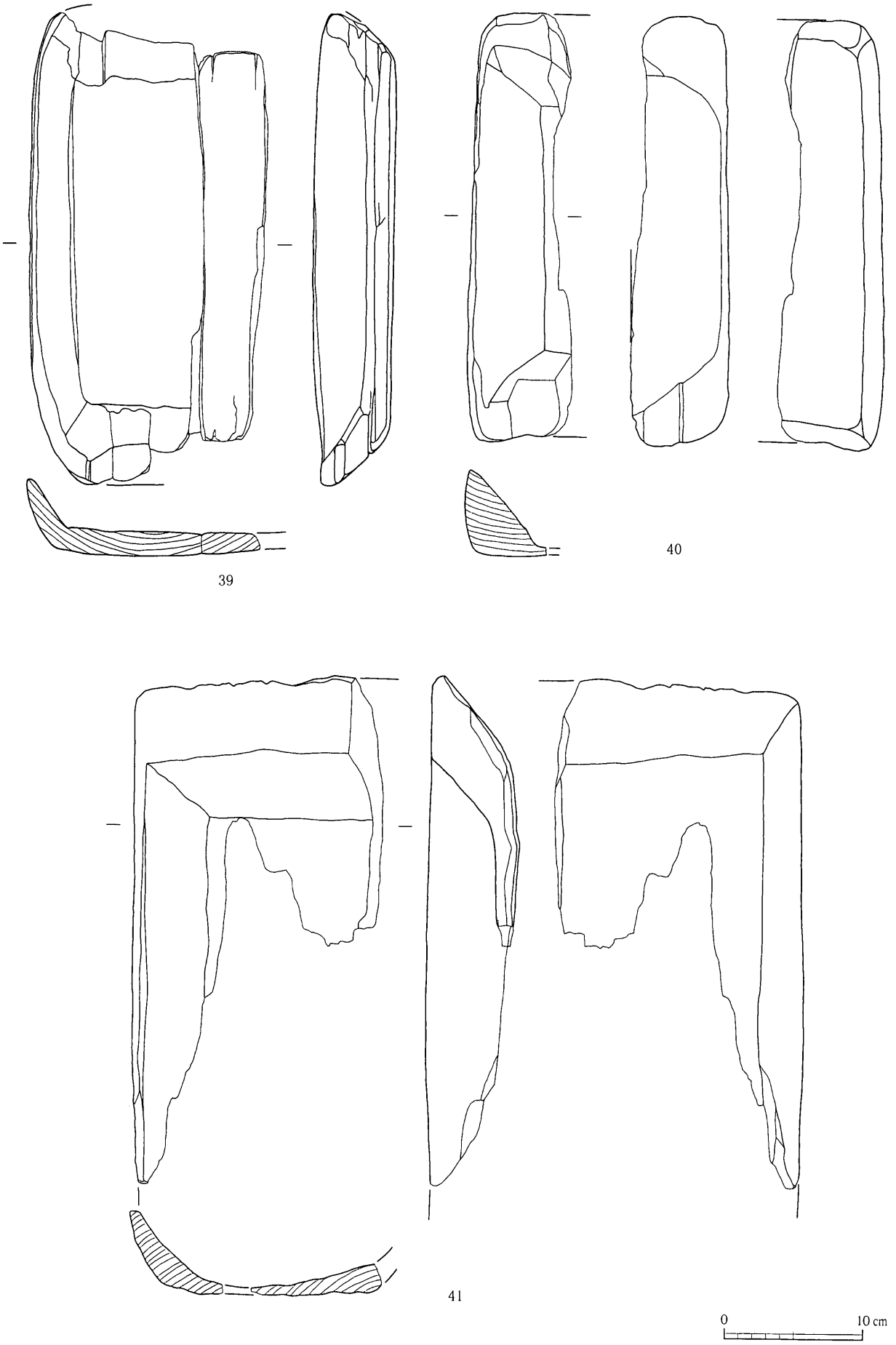




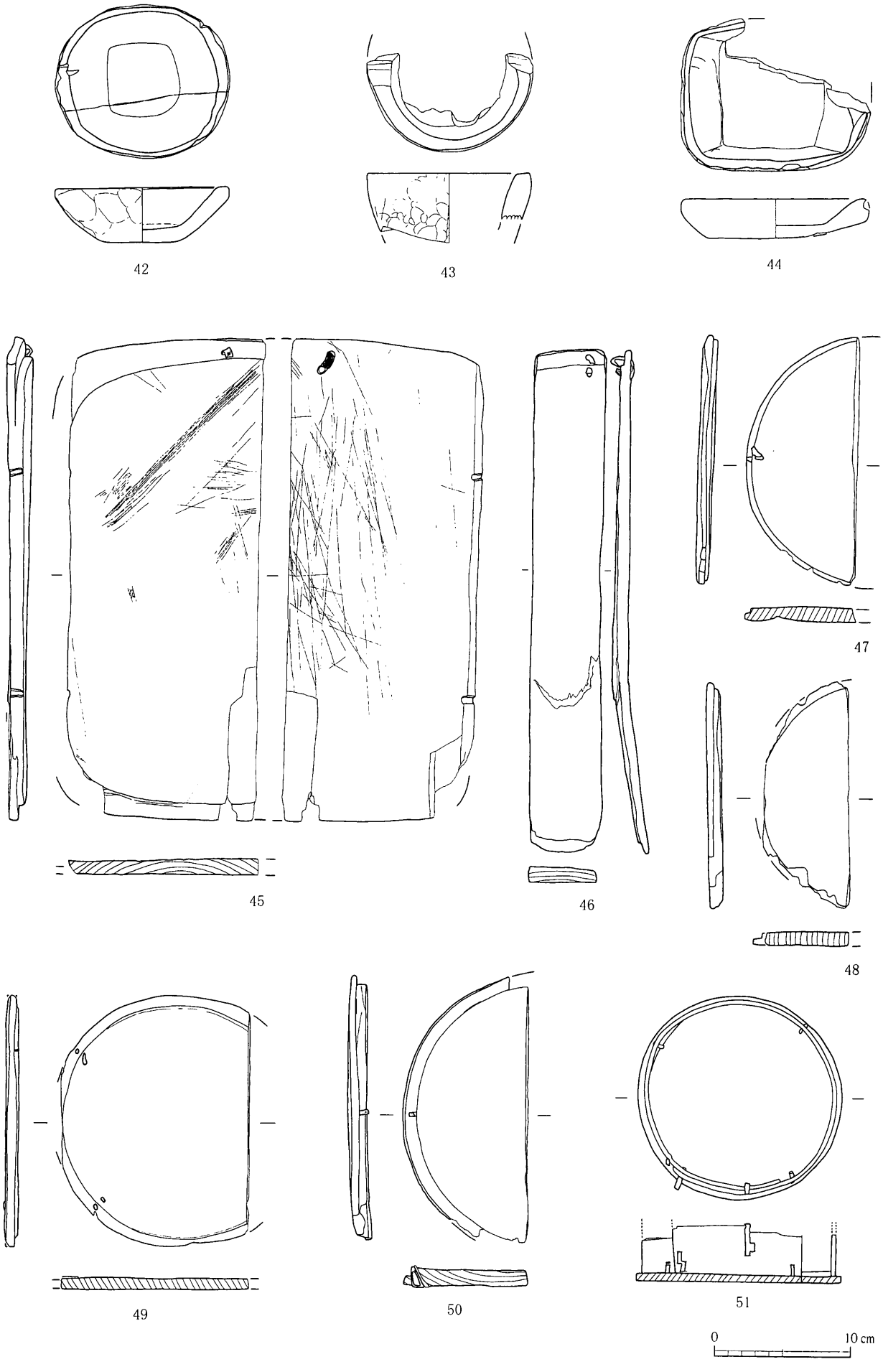
挿図８　紡織具・服飾具



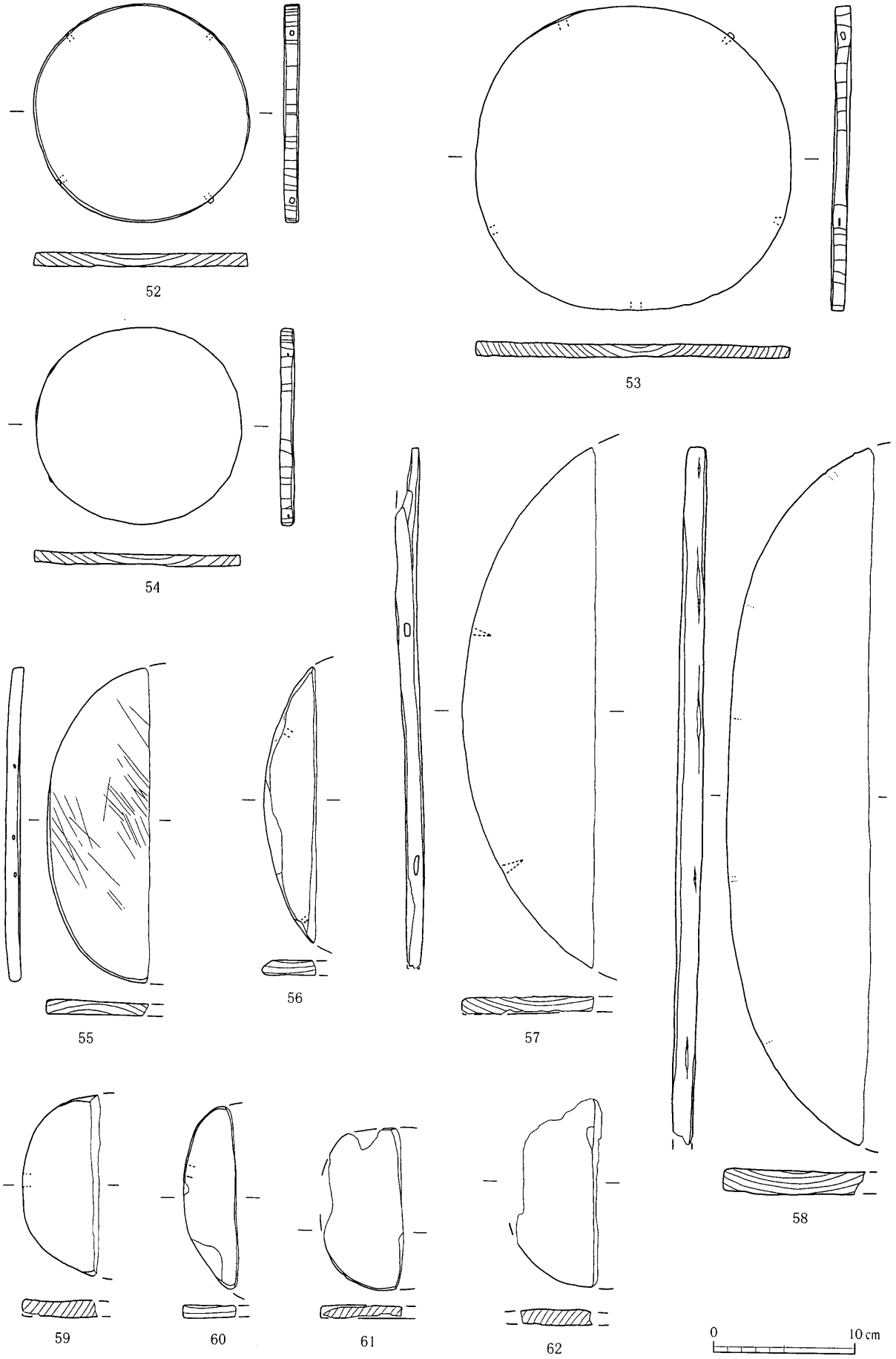
挿図９　服飾具・容器



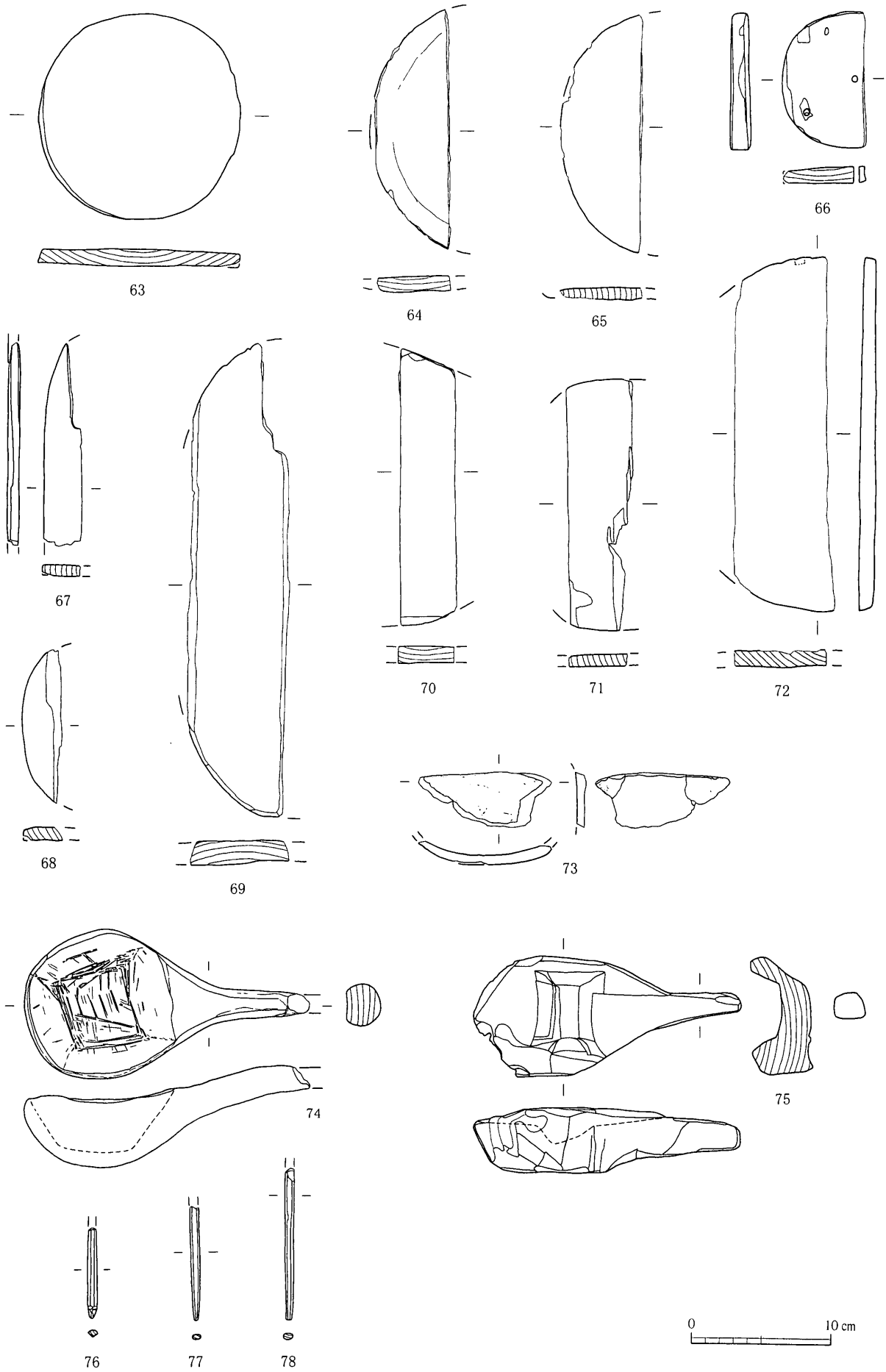
挿図10　容器



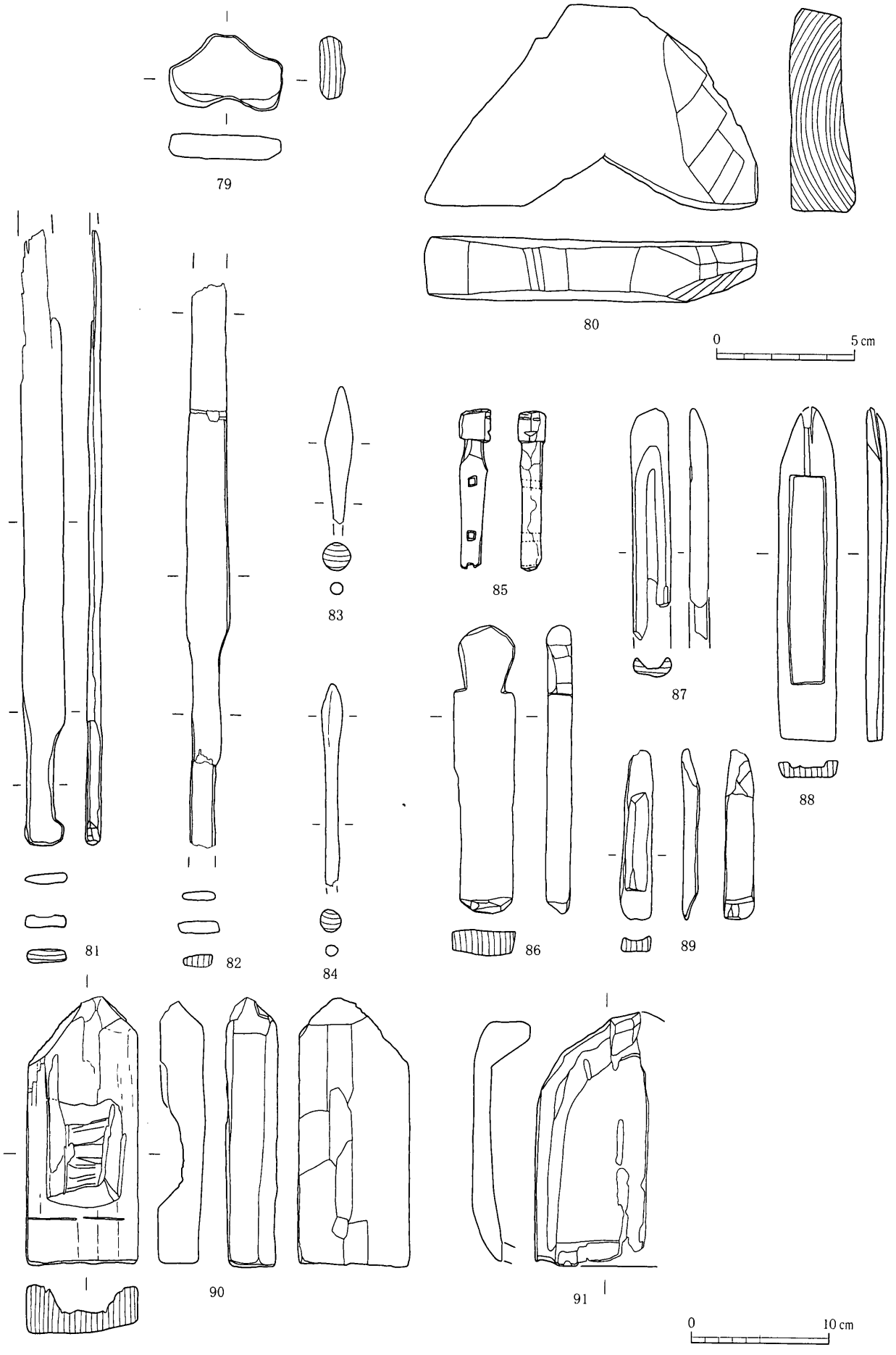
挿図11　容器



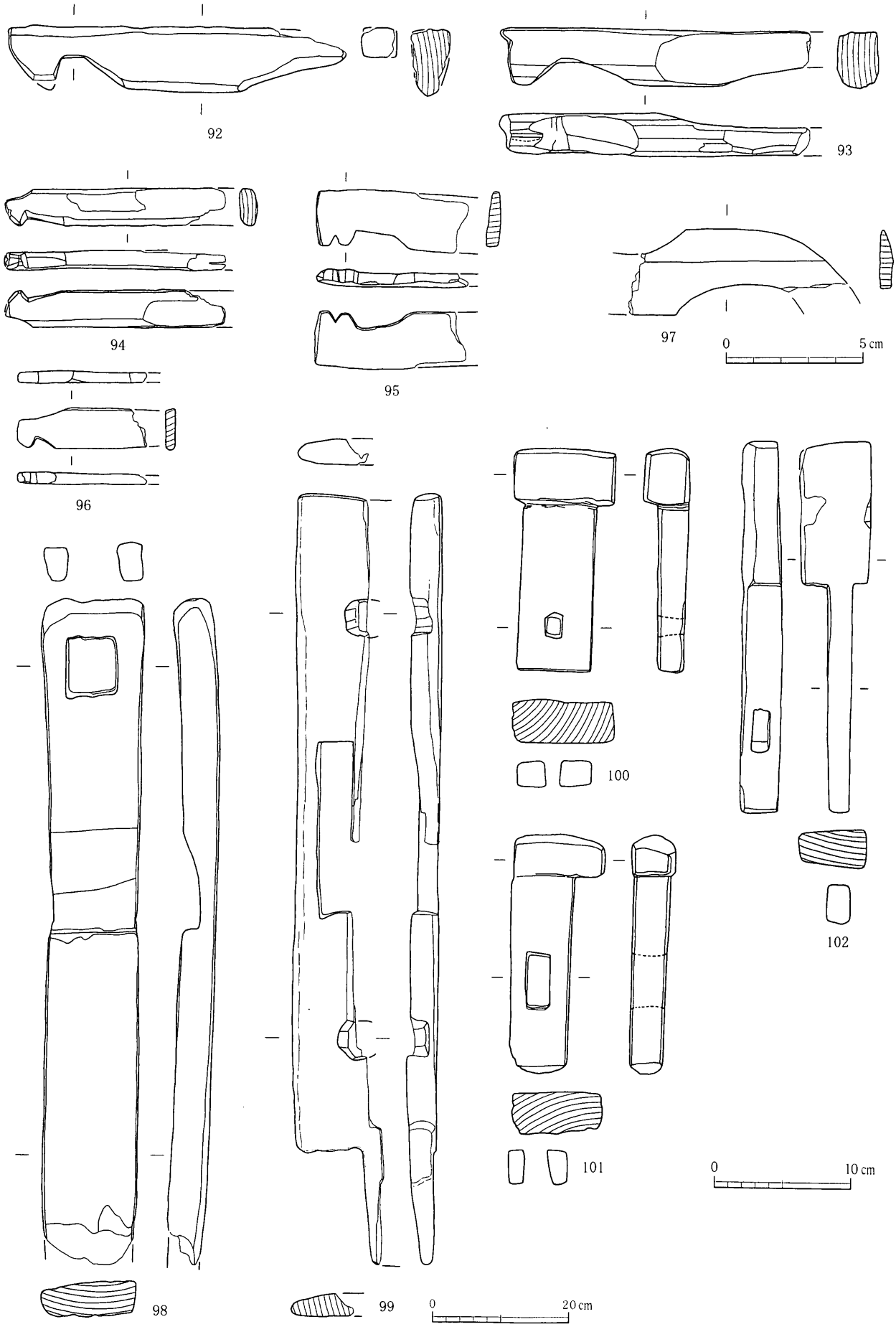
挿図12　容器



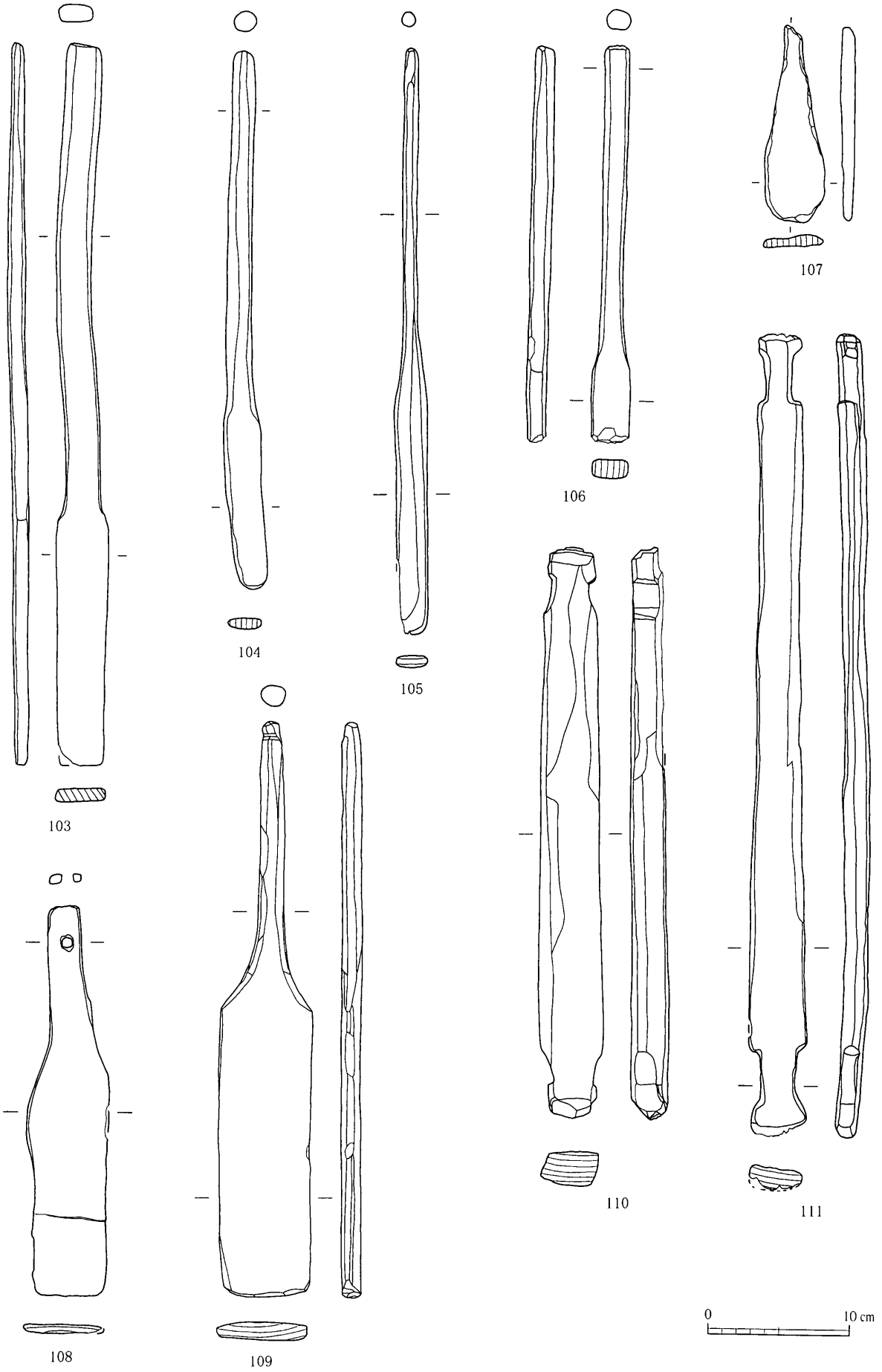
挿図13　容器・食事具



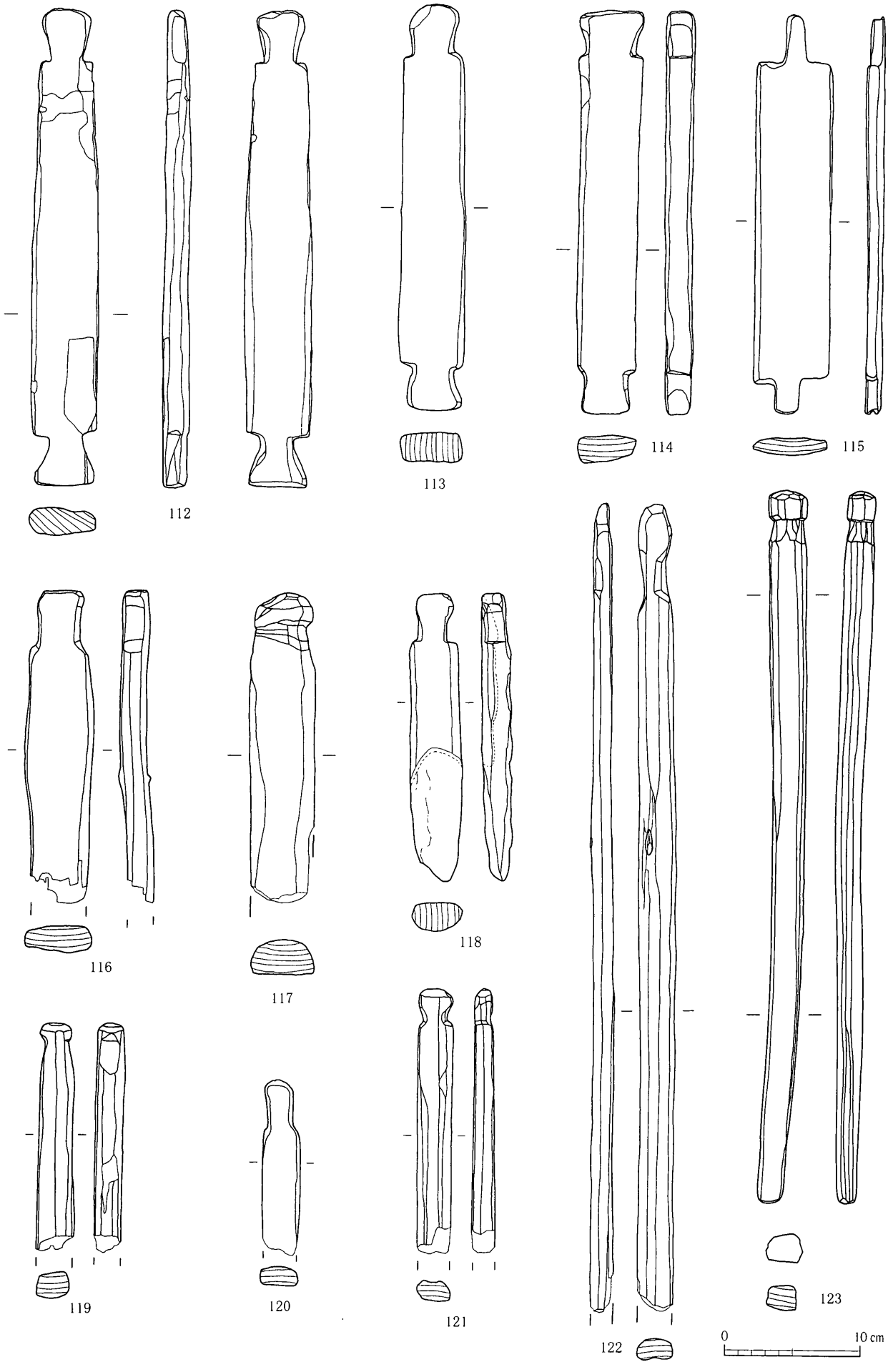
挿図14　楽器・祭祀具



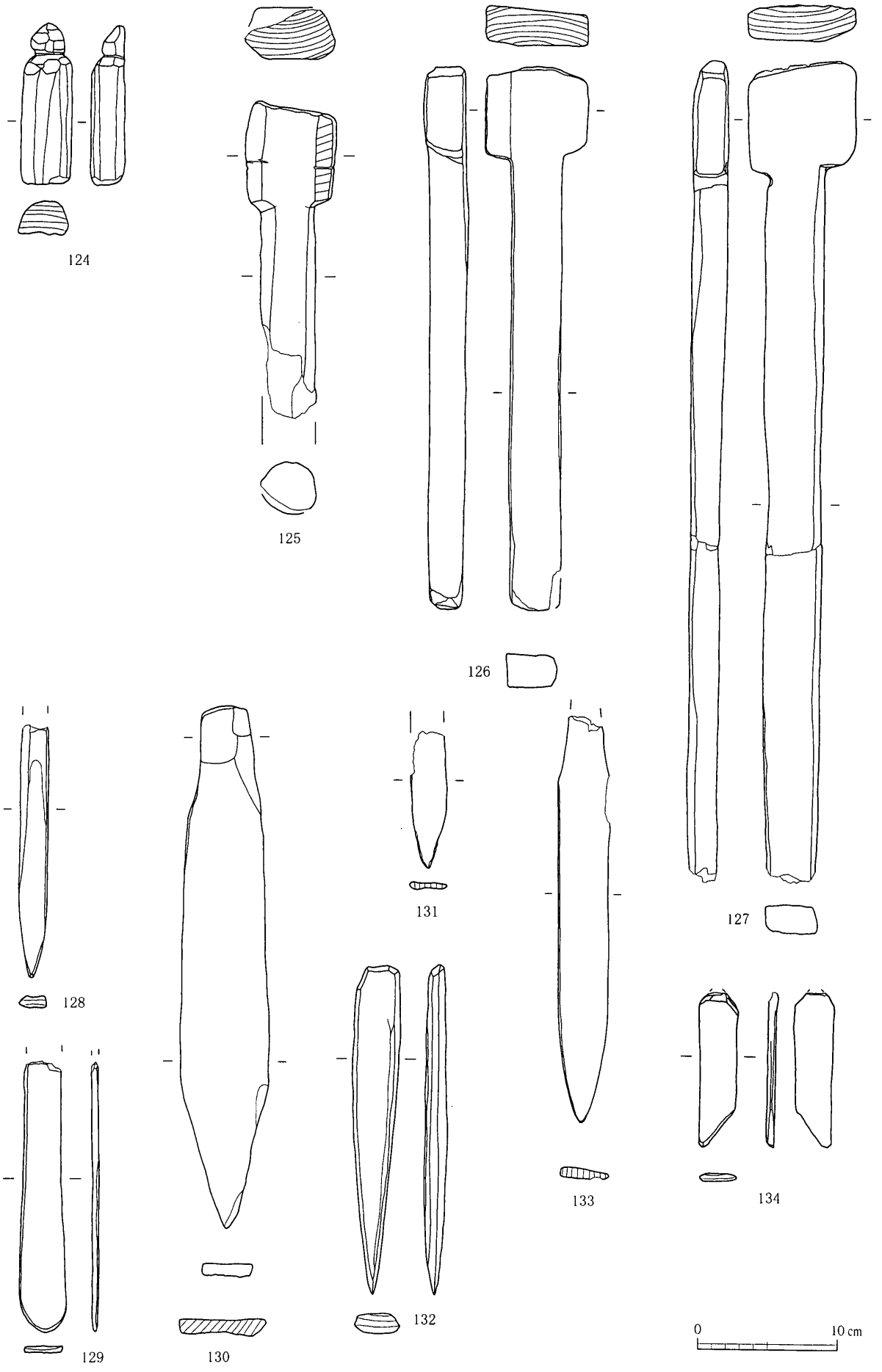
挿図15　祭祀具・部材



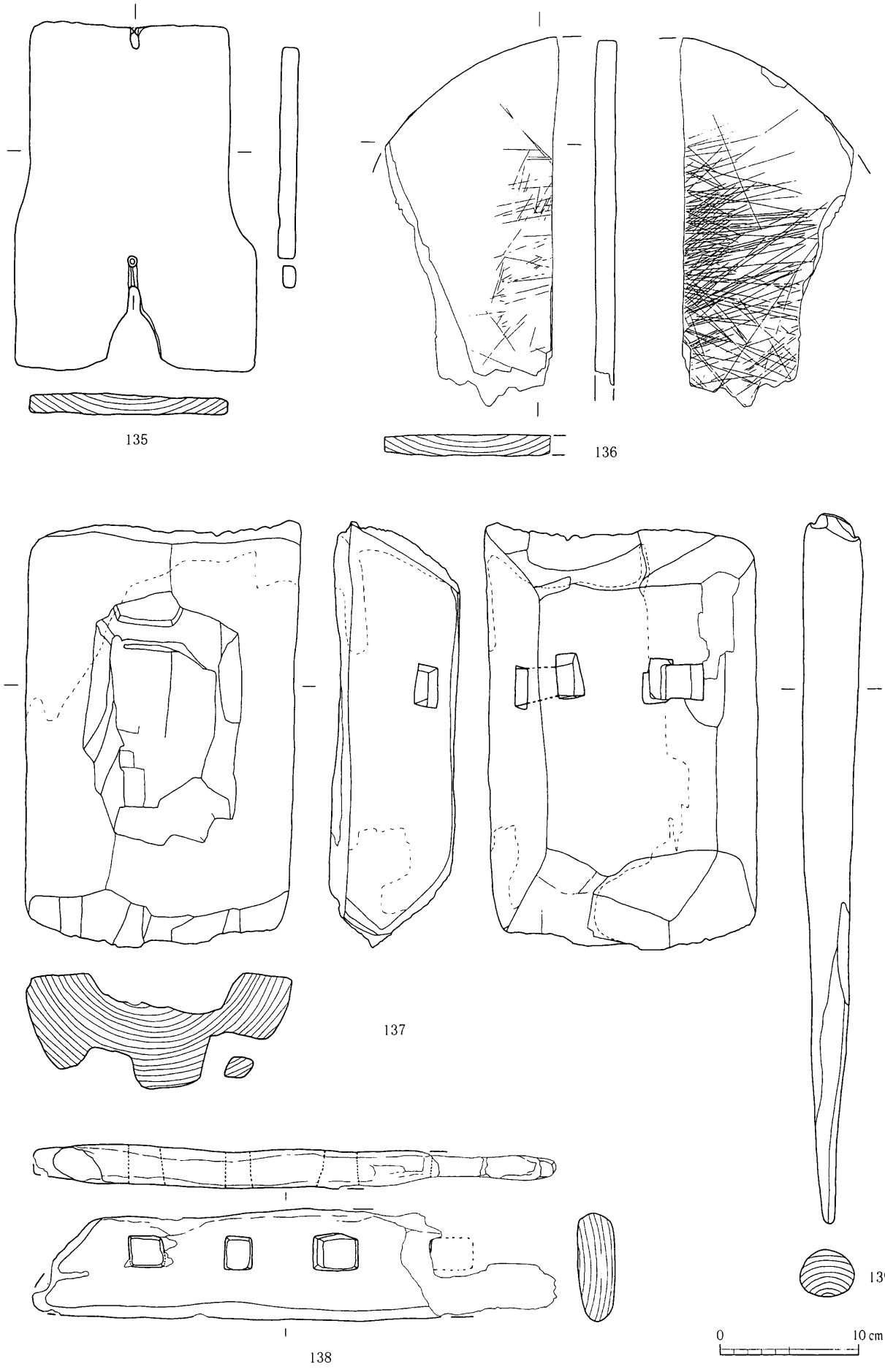
挿図16　その他



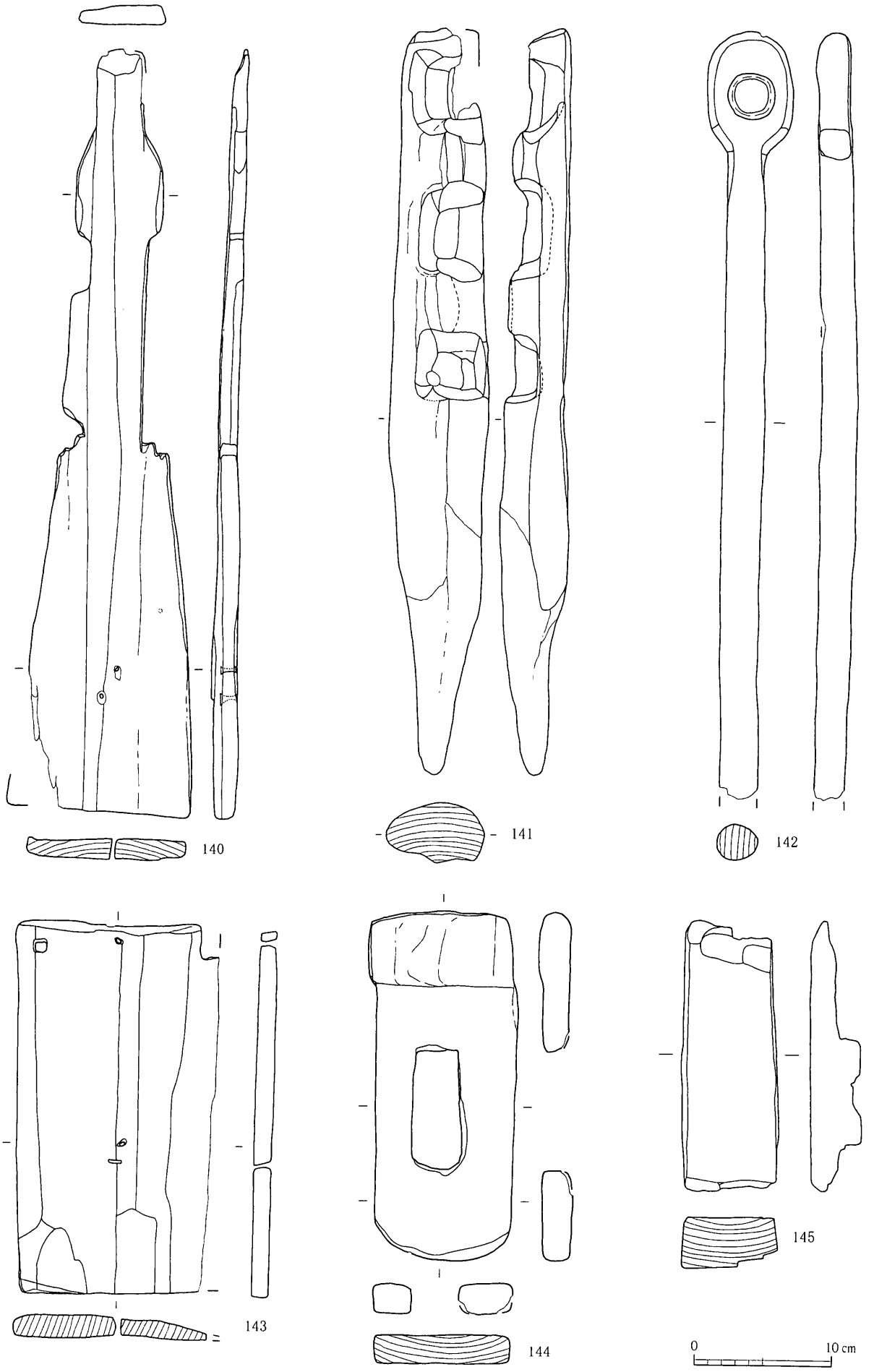
挿図17　その他



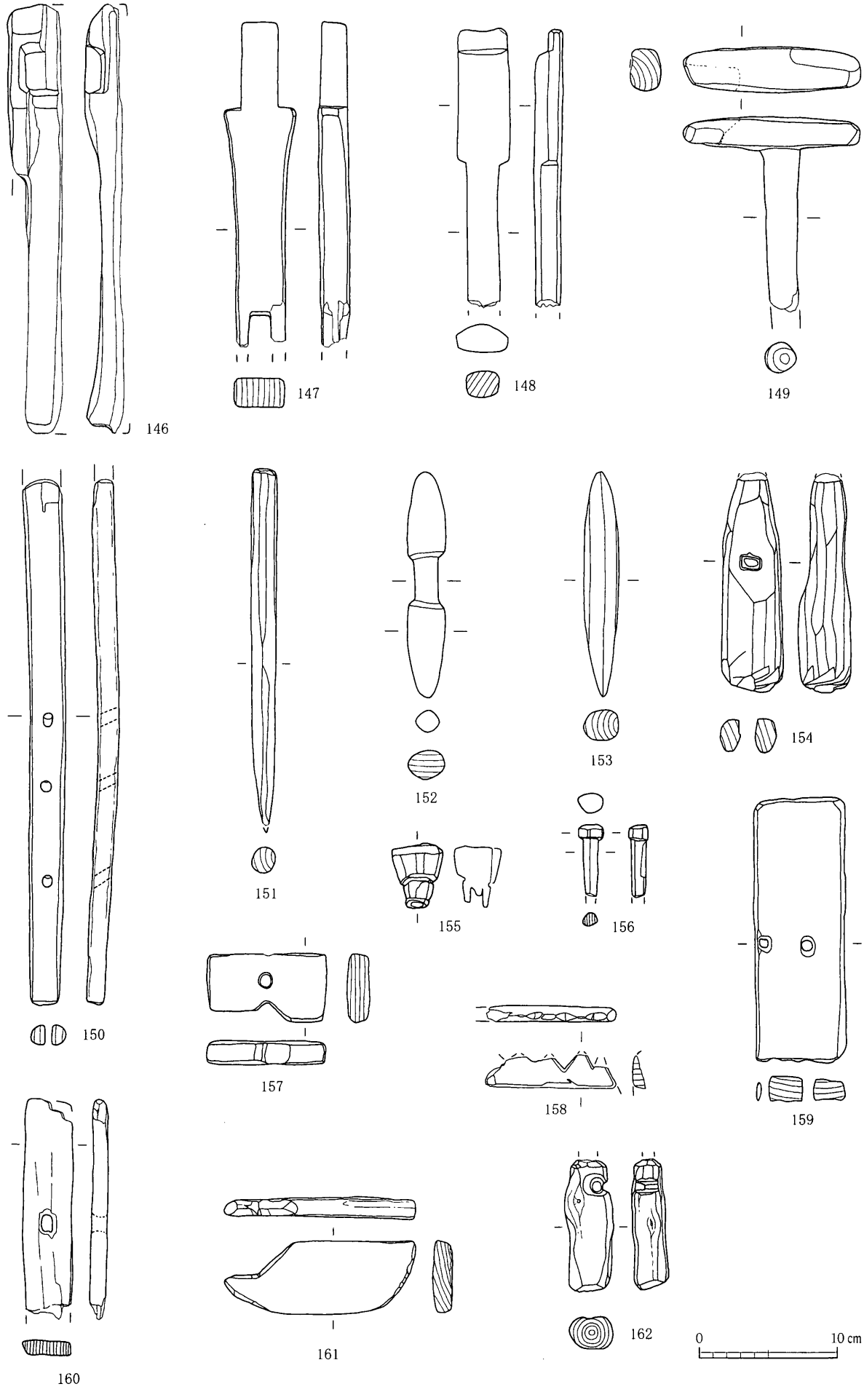
挿図18　その他



挿図19　その他



挿図20　その他


146
147
148
149
150
151
152
153
154
155
156
157
158
159
160
161
162
0
10 cm

挿図21　その他

恒川A地籍　現状

恒川A地籍現状（恒川清水より望む）

図版 2

3層　遺物出土状況（AE51・AF51）

5層　遺物出土状況（AK45）

5層　遺物出土状況（AH49・50・AG49）

5層　遺物出土状況（AG53・AH53）

図版 4

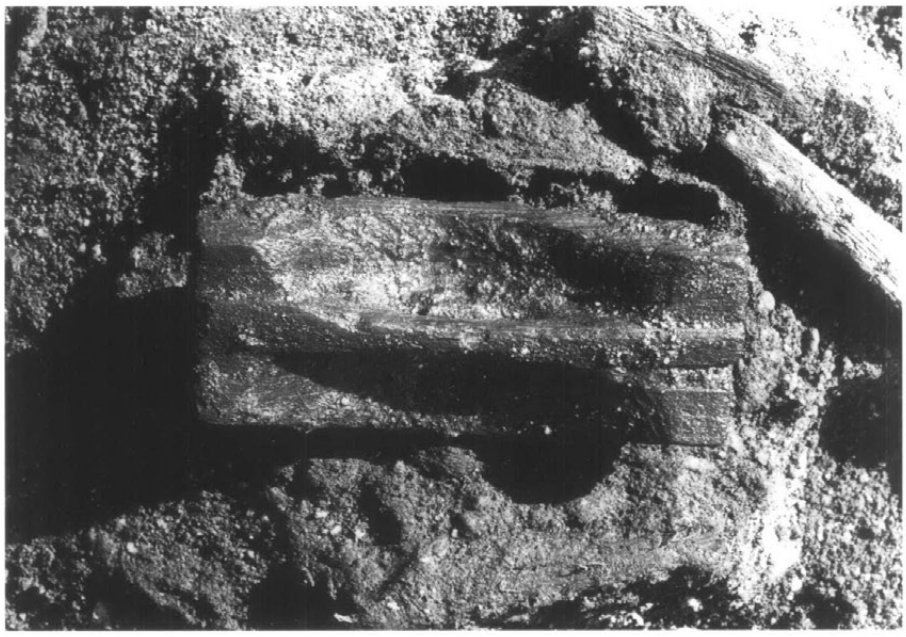
5層全体　遺物出土状況（北から）

5層全体　遺物出土状況（西から）

6 層　遺物出土状況（AK48）

6 層　遺物出土状況（AJ49）

図版 6



鏝（2） 出土状況

又鍬（6） 出土状況

鋤（9） 出土状況

横槌（17） 出土状況

柿（23） 出土状況

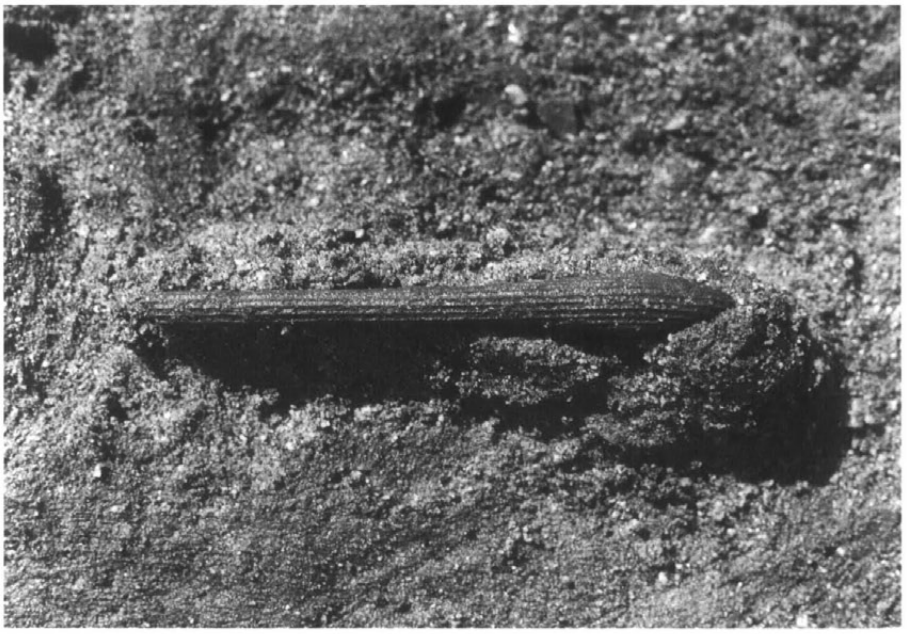
柿（24） 出土状況

図版 8

下駄（29） 出土状況

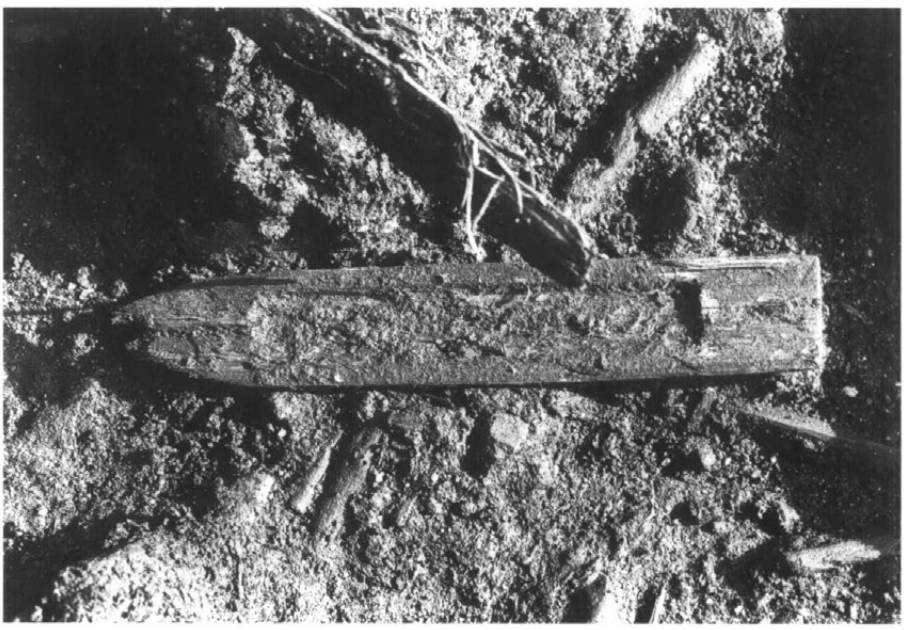
下駄（30・31） 出土状況

曲物（48） 出土状況



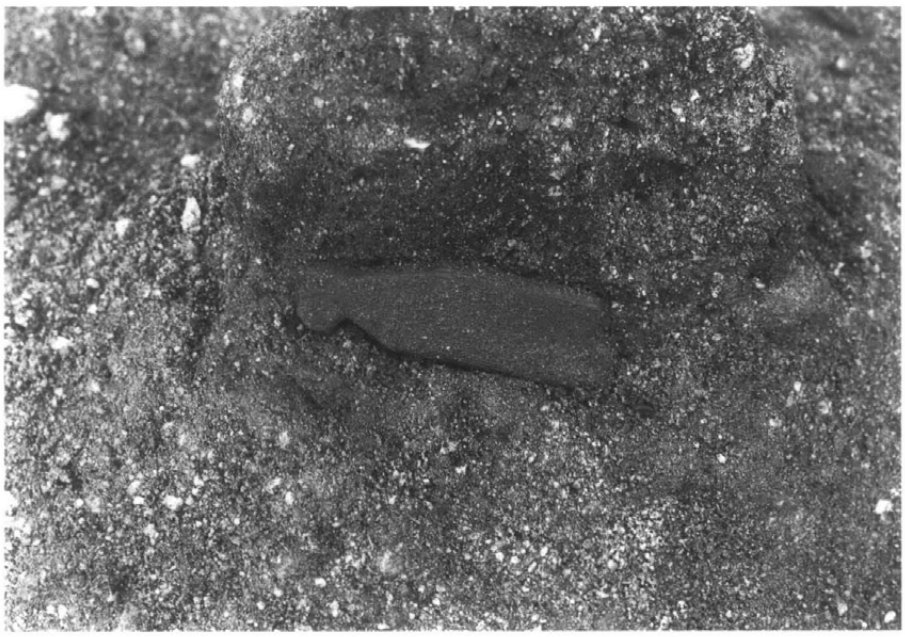
鏃形（84） 出土状況

人形（86） 出土状況



舟形（88） 出土状況

図版10



馬形（96） 出土状況

部材（100） 出土状況

部材（102） 出土状況

調査風景

調査風景

鏝

鏝（磨り板下面）

斧柄

平鍬

平鍬

平鍬

又鍬

又鍬

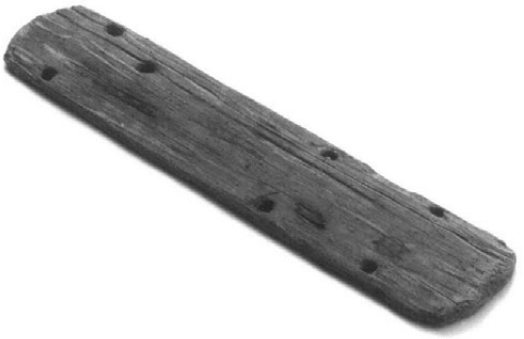
横鍬（表）

横鍬（裏）

平鋤

多又鋤

鎌柄



田下駄

横槌

杼

杼

紡錘車

櫛

下駄

刳物

刳物

曲物

曲物

曲物

曲物

挽物

匙

箸

琴柱

鏃形

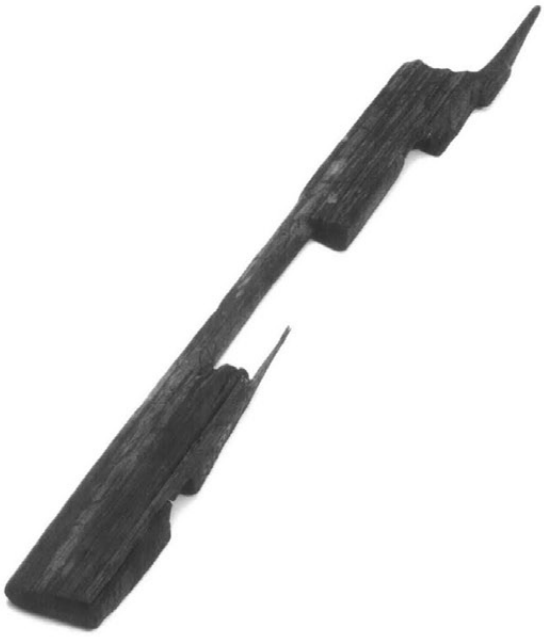
人形

刀形

舟形

馬形

鳥形　　建築部材



建築部材

杓子形木製品

留具状木製品

両端加工木製品

有頭状木製品

有頭状木製品

用途不明品

用途不明品

用途不明品

用途不明品

用途不明品

用途不明品

用途不明品

用途不明品

用途不明品

用途不明品

報 告 書 抄 録

ふりがな	ごんがいせきぐん（ごんがAちせきしゅつどもくせいひんへん）
書名	恒川遺跡群（恒川A地籍出土木製品編）
副書名	
巻次	
シリーズ名	
編著者名	坂井勇雄
編集機関	長野県飯田市教育委員会
所在地	〒395-8501　長野県飯田市大久保町2534番地　TEL 0265-22-4511
発行年月日	西暦2008年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
ごんがいせきぐん 恒川遺跡群	いいだしざこうじ 飯田市座光寺	20205	35度 31分 48秒	137度 51分 59秒	昭和51年度 ～ 昭和56年度		緊急発掘調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
恒川遺跡群 （恒川A地籍）	集落	弥生時代 古墳時代 奈良時代 平安時代 中世	竪穴住居址 掘建柱建物址 溝址 土坑	土師器 須恵器 玉類 石製模造品 木製品	湿地帯より多量の木製品が出土。

報告書要約

恒川A地籍は、恒川遺跡群の中では南側に位置する地点であり、弥生時代から奈良時代にかけての集落が調査されている。地籍の南側には「恒川清水」と呼ばれる湧水点に起因する湿地帯が広く存在し、そこから多量の木製品が出土した。

恒川遺跡群

―恒川A地籍出土木製品編―

2008年3月31日　発行

編集・発行　長野県飯田市大久保2534

飯田市教育委員会

印　　刷　杉本印刷株式会社